

る所にして、本堂には薬師佛、日光月光の十二神將を安置せり。境内に二層塔、大佛堂、樓門等あり。感應寺は此寺の東富藏の山中にありて、俗に富藏の妙見といへり。

牛瀧山 松尾寺より泉南泉北兩郡の間を劃せる小山嶺に沿ひて南行し、和歌山の國境に至れば有名なる牛瀧山あり。山は山瀧村大字大澤より、登路十五町にして、嶺に達す。山中に牛瀧あり、三層となして落下す。一瀑の高さ二十五丈、二瀑の高さ一丈二尺、三瀑三丈六尺、各幅八尺を有せり。

り。山腹に大威徳寺あり。又満山楓樹多く、溪流の之が美を助るありて、秋季は來遊の客頗る多しといふ。

大威徳寺 古へ石藏五山の名ありき。今は本坊、穀屋坊の二派に分れ、本坊は眞言宗、穀屋坊は天台宗に屬せり。弘法大師及び亮和尚の此寺に駐錫せしより、二派に分れしなりといふ。本坊は牛瀧川の右岸に添える登路の左側に、穀屋坊は其右側にあり。本堂は更に其上方石階上にありて、大威徳明王を安置し、脇壇に開祖役の小角作不動尊、弘法大師作阿彌陀佛を安せり。寺域頗る幽邃閑雅の趣に富む。本堂の背後なる瀧道を三町にして牛瀧に達すべし。

施福寺 泉北郡の北、河内の國境上なる槇尾山の奥にあり。槇尾山は東横山村大字槇尾に屬し、海拔九百二十米を有せり。山中峯巒重疊として、瀧多く、洞窟また勢なからず。西横山村大字坪井より登路二里十四町、之を表道と稱し、河内國錦部の瀧畑より同じく一里、之を裏道と呼べり。施福寺はもと眞言宗にして、寛文年間以後天台

宗となり、西國巡禮三十三番札所の四番たり。開基は行滿上人にして、弘法大師も又當山に滞在せし事ありと。境内頗る深遠にして、眺望爽快なり。本尊彌勒佛にして、本堂の他に大師堂、不動堂、經藏等あり。山中峯の最も高きは兜卒ヶ嶽にして、卒都婆ヶ峰、捨身ヶ嶽之に次げり。瀧には清水ヶ瀧、隠れ水等あり。

七越山 は更に槇尾山の奥にありて、南横山村大字父鬼より一里十五町にして山嶺に達すべし。山は紀、泉、河の三國に跨り、峠を七曲りと稱す。之を南に越ゆれば和歌山縣の伊都郡に出づべし。

○泉南地方 和泉國は靴の形を成し泉南郡は其靴の甲のところより尖のところに着れり。道路は和歌山街道と海岸路との二路あるのみ。しかもこの二路は上瓦屋に於て合して一になる、岸和田町は泉南郡役所のあるところにして、國中堺市に次いで繁盛なる都邑なり。日根野は歴代天皇の屢々遊獵せられしところとして著名の古蹟多し。  
●岸和田町 戸數約三千、人口二萬七千餘を有せり。此地古は唯岸とのみ言ひしを、

南北朝の時、和田高家始めて城郭を築き、これより岸の和田と稱し、竟に邑名となれり。徳川氏岡部氏を此地に封じ、城址殘濠今猶存せり。市街は海岸に濱するを以て、商估肆店、結構整頓せるものあらざれども、泉南郡役所、區裁判所、中學校、高等女學校等ありて、また繁華の區なり。西方なる岸和田港には、船舶多く出入し、貨物の集散また尠なからず。

●蛸地藏堂 岡岸和田町大字南町にあり。天性寺と稱す。此地方の流行佛にして、賽者日夜に絶えず。

●久米田寺 岸和田町の東方、八木村大字池尻にあり。眞言宗を奉じて、僧行基の開創にかゝはる。本堂の他に不動堂、觀音堂開山堂等あり。また南邊に三基の石塔あり。寶什の縁起は僧行基の眞筆にして、其他楠、新田、足利諸氏の書簡を藏せり。寺の西方に一小丘あり、これ橘諸足公の塚にして、上に圓形の墓石を置けり。寺前の池は即ち久米田池にして、方八町を有し、神龜二年行基僧正が久米田寺創建の時、之を鑿造

せしものなり。上古は頗る灌漑の利ありしものにて、狭山池と共に有名なり。

貝塚町 岸和田町の西南約半里にあり。人口五千餘を有し、堺以南遊廓ある地として殊に有名なり。

願泉寺 は俗に貝塚御坊と稱し、貝塚町大字中之町にあり。境内方四町に亘り、昔時は有力なる寺なりき。眞言宗本願寺に屬し、僧行基の開基にして後僧新川ト半此寺に住し、顯如上人も一時此所に兵難を避けたる事ありき。元和元年の役、東軍に味方して功ありしより、大に幕府の保助を受けたりき。毎年十一月報恩講を催し、賽者踵至す。

神於寺 東葛城村大字神於山にあり。役小角の開基にして、天台宗を奉じ、寶物に小角所持と稱する松蟲、鈴蟲の二鈴を藏せり。寺の眺望開豁にして、眼下に泉州小山脉の起伏するを望み、遠く烟波の渺々たるに對す。其景勝、容易に狀す可らざるものあり。山頂に寶勝權現社あり。

水間寺 は小栗街道の南、近木川の上流、水間村にあり。天平十六年聖武天皇の勅を奉じて、行基僧正の開創する所たり。古昔は大迦藍なりしも、今大に衰頽せり。寺に後村上天皇の繪旨、足利義滿の制狀等を藏す。彼の情死を以て名高きお夏清十郎の墓また此所にあり。古刹、本積觀音堂また此附近にして、同じく行基僧正の開基にかゝはる。

石の寶殿 は近木川の水源、葛城山の中腹にありて、西葛城大字蕎原より登路十町にして達すべし。山奥に三重の瀧あり。石の地藏を祀る。

日根野 今の日根野村の地は往古歴代の天皇が屢々遊獵あらせられたる所にして、萬葉集中に多く、其詠を見る。日根神社はもと大堰關大明神と稱し、式内の社祠にして、今郷社に列せり。鷓鴣菴葺不合尊、玉依姫を祀る。創建は遠く聖武天皇の御宇に係はり、和泉五社の一として、社宇壯麗を極めしも正平年間兵燹に罹りて悉く焼失し、後覺蒙阿闍梨之を復興せり。社の南に大井關川あり、水源を犬鳴山の南に發し、

西走六里にして海に入れり。

●●●●●  
犬鳴山 是日根野村の東方に位し、和歌山縣界に聳ゆる一小山にして、大土村大字大木より登路二十五町にして其山頂に達すべし。山腹に七寶瀧寺あり。また兩界、塔、辨天、小槻、奥、千丈、布引の七寶瀧あり。中布引は高さ三十六丈、幅三尺、小槻は高さ十二丈幅三尺を有して、七瀧いづれも大井關川に流入す。

泉州誌に曰く、昔一獵夫あり、此山に獵す。伴ふ所の犬頗りに吠えて、其主に追る。獵夫怒つて之を斬りしに、犬の頭飛んで溪間に至り、忽ち一蛇を噬殺す。蓋し、狗の鳴號せしは毒蛇の危念を獵夫に告げしものなり。後獵夫忠犬の死を悲み、薙髮して佛門に入れり。これ、犬鳴の山名の因つて起る所以なりと。また和泉式部の歌にいふ「山里は嬾られざりけり夜もすがら松ふく風に驚かれつ」。

●●●●●  
七寶瀧寺 役の小角の開基にして、正平中志一上人之を再興せり。宗旨は眞言にして、本堂に不動明王の像を安置せり。寺の附近に笈掛岩、天狗岩、風穴、押上石、石不動、志津の墓犬の碑等あり。

●●●●●  
蟻通神社 長瀧村の北にあり。社殿は東向して立ち、前に朱の華表あり。額に蟻通大明神の五字を刻せり、社前また青松多し。蟻通の故事は枕草紙及び俗説辨才に詳しく載せたり。

●●●●●  
深日の浦 深日村の海岸一里許りの總稱なり。浦は白砂青松一帯の風光畫の如く、波濤激盪日に映じ、眞に嘆賞に値せり。殊に、海中には烏帽子岩、入道岩、冠石等の奇岩突兀として、月夜の金波銀波、そらろに遊人の思を惹くものあり。これより、海岸の一路は谷川村を経て、直ちに和歌山縣加太村に達せり。

●●●●●  
飯盛山 深日村の東南、孝子村にあり。和歌山縣界連峰の一にして、同縣園部に通ずる峠道を孝子越といひ、約三里の道程あり。山頂に飯盛寺址あり。昔、役の小角の開基にして、堂宇壯麗なりし由るなも、今悉く頽廢して、僅に礎石を残せり。山の東に接して井關山あり。

●●●●●  
雄山 是和歌山縣界山峰の總稱にして、葛城、犬鳴諸峰の餘脈をいふ。即ち今の雄

信達一村の舊名なり。日本後記に、延暦二十三年、桓武帝雄山道より還り、日根行宮に入御すと。又平治物語に、平清盛父子熊野詣の時、京洛の兵亂を聞きて、功目の宿より紀泉の境なる雄の中山に至りて、六波羅の使者に逢ふ云々と。共に此雄山を指せるなるべし。

男神社 雄信達村大字男里にあり。延喜式内の神社にして、今縣社に列せり。祭神二座、一は神武帝を祀りて、男森明神と稱し、一は彦五瀬命を祀り、濱の天神と稱す、往古の寄船地たる山城水門また此社の近くにあり。

金熊寺 東信達村大字金熊寺にあり。役の小角の開基にして、眞言宗に屬し、本堂には小角作如意輪觀音を安置せり。其他、行者堂、藥師堂等あり。鎮守神を金峰、熊野の二神となし、他に疫神社あり。寺の附近梅樹多く、俗に一目千本の稱あり。

茅渚宮址 上の郷村字中村附近にあり。日本書紀に允恭天皇衣通姫を納れて、更に宮室を河内茅渚に興造して居せしめ、因りて以て屢々其地に遊獵すとあり。また珍努の池は北中通村大字鶴原にあり。古事記に曰く、垂仁帝の御子印色入日命、珍努の池を作ると、附近に延喜式意賀美神社あり。

熊取 延暦二十三年、桓武帝和泉行幸の時熊取野に遊獵ありし事、日本後紀に見えたり。又熊取野行宮址は熊取村大字五門にあり、寛治年中白河法皇熊野行幸の際此地に行宮を興し給ひ、後中左近といふもの其址を居宅として、近世に至るまで猶唐門の形を存したりといふ。

## 攝津國

攝津國は五畿内中の西部を占め、北は丹波、南は其大部分大阪灣に臨み、東南の一部は和泉に境し、東は山城、河内、西は播磨に連る。東西の長さ凡そ八里、南北の幅最も廣き處に於て七里、面積一〇五方里を有し、大阪府及び兵庫縣の所管にして、大阪府に屬するものは、大阪市及び西成、東成、三島、豊能の四郡、兵庫縣に屬するものは神戸市、及び武庫、川邊、有馬の四郡と爲す。人口一、八一五三〇〇を有し地勢は北部、西北部、西部に於て山岳に富み、丹波國に接する地方は老の阪山脈略々東西に連亘し、北より南に次第に大阪平原に降り、芥川、安威川、猪名川、武庫川等其間を流れて、幾多の側派を支出せり。而して其主脈は老の阪峠より四五百米の距離を保ちて、山城、丹波、攝津の界を掠め、妙見山に至りて九百〇八米を示し、其北方に至りて稍々陵夷し、能勢、川込、有馬附近に於て又著しく隆起し、深山（九百六十

米）天狗岩（七百五十三米）等の諸山を起す。六甲山脈は國の西部即ち武庫川以西に蜿蜒し、六甲山（九百二十七米）摩耶山（六百九十四米）再度山（四百五十米）鷹取山（二百三十米）とあり、神戸市の西北を劃りて鐵拐山（二百八十六米）を起す。帝釋山脈は六甲山脈の北方に連亘し、武庫川の支流たる南鹽田川と加古川の支流たる三木川とに由りて六甲山脈と隔てられ、播磨攝津の國境に丹生山（五百十四米）帝釋山（五百八十五米）を聳立せしむ。而してこの三山脈を背部にせる一大平野は、即ち攝津、河内、和泉に跨がる大阪平原にして、全面積凡そ千〇五方里（百〇五方里攝津に屬するものは五百餘平方里（五十方里）を有す。東より西に至るに従ひ、次第に其の廣瀾の度を減じ、全く細長たる海岸平地を爲すにすぎざるに至る。川は山城より來れる淀川は其平野の東部を西南に緩流し、北部山地より來れる猪名川と武庫川とは平野の中部を南に貫き、芦屋川、住吉川、新生田川、湊川等の小流は西方海岸の平地を灌漑す。この平野には、都市發達し、大阪の大都は淀川の下流に跨りて海に近く、神戸市は西方海

に瀕して六甲山の麓に位し、海岸平地には尼ヶ崎、西の宮、住吉等の諸市街あり。淀川の右岸には吹田、茨木、高槻等の諸名邑あり。猪名川の沿岸には、伊丹、池田等あり。五畿内中、最も商業の發達せる地方たることは、もとより言ふを待たず。

沿革 古へ浪速の國と稱し仁德天皇の高津の宮に都し給ふや、専ら宮室を卑うして、人民を撫育し、寇煙日に熾んに民聖德の高きを仰ぐ。次で 孝德天皇宮殿を豊崎ノ宮（今の西成郡長柄村）に移し、天武天皇六年攝津職を設け、延暦年間更に國司に改めて府を西成郡に置く。後醍醐天皇の御宇楠正成河内より出で、天皇を守護して足利尊氏と豊島に戦ひ、後ち尊氏再襲して楠氏は湊川に戦死す。尊氏乃ち赤松範資をして州疆を侵略せしめ、後ち佐々木秀詮を守護とし、應安年間細川頼之に代り、終に其の管國となる。其末孫細川澄元同族高國と戦ひ、池田伊丹の諸族之に雷同して全國爲めに分裂す。澄元歿するに及びて高國終に當國を侵略し、尼ヶ崎城に居る。天文年間三好長慶一國を奪ひ、後ち永祿年中織田信長來りて長慶寺を敗り、地を分ちて伊丹親興

池田勝政、和田惟政に與ふ。豊臣秀吉天下を定むるに及び、大阪に城きて之に居る。

今の大阪城是なり。其子秀頼隙を德川氏と生じ大に之と戦ひ、秀頼終に亡ぶ。德川氏乃ち故城を修築して松平忠明を封じ元和八年初めて内藤信政を以て城代とす、王政革新の時府を大阪に置き一國の半ばを割きて兵庫縣の管轄とす。

交通 東部山城より來れる官設東海道線は山崎驛より高槻、茨木、吹田の三驛を大阪街道に置き、新淀川鐵橋を渡りて、大阪市梅田に達し、再び出で、西成の平地を貫き神崎驛をすぎ、長洲驛に於て、尼ヶ崎を起點とせし阪鶴鐵道を北に岐ち、武庫川の鐵橋を過ぎて、西宮驛に達し、住吉驛を経て、神戸市に至り、これより西し、兵庫、須磨を経て、播磨國に入る。阪鶴鐵道は尼ヶ崎町を起點とし、長洲、塚口、伊丹、池田等の諸驛を経て西折し、中山、寶塚、生瀬、武田尾、道場、三田、廣野、藍本を經、帝釋山脈の西端を掠めて、丹波の笹山盆地に出づ。表日本と裏日本とを連絡せる重接せる交通路なり。其他大阪附近は鐵路縱横、恰も蛛網を張りうるが如く、關西線、網島

線、高野線、南海鐵道線、西成線等あり。

産業 米は西成東成豊能三島に産す、殊に豊能三島西部は米質良好にして酒造用として世に名高し。食用農産物として大阪の天王寺蕪、胡蘿蔔芋等名あり。菓樹は池田町の近傍に於て各種果樹の苗木をつくり、盛に各地方に輸出す。林業は振はざれども其副産物として松茸、栗、炭等あり。炭は主として池田地方に産す。水産製造物としては、東北部の寒天製造最も盛なり。工業としては、大阪市に綿糸紡績の大工業あり。大阪紡績會社、攝津紡績會社、日本紡績株式會社、福島紡績株式會社、大阪合同紡績株式會社、天満工場、今宮工場等の大會社あり。其の規模産額の巨大なる、本邦屈指と稱せらる。織物に關しては、京都市のごとき沿革歴史なしと雖も、工場多く、仲次商、小賣商多きを以て、此地方の織物の賣買及び輸出に關しては至大の關係あり。又、モスリン友染の工場二三ありて、産額少しとせず。漆器は輸出向多し。醸造品は、灘、伊丹の清酒天下に名あり。吹田に大阪朝日麥酒會社あり。

○官線東海鐵道沿線 所謂淀川北岸の地にして、山崎街道(西國街道)大阪街道の二路及び淀川に沿へる一路ありて、鐵道は高槻驛まで山崎街道に添ひ、それより稍々西南して大阪街道に添ふ。街路上に高槻、富田、茨木、吹田の諸名邑あり。三島郡役所は茨木町にあり。山崎驛附近は秀吉光秀の古戰場として名高く、其附近に楠公訣別の遺趾あり。茨木には片桐且元の城址を存す。高槻より東、淀川を渡れば河内の枚方町に入るべく、茨木町の南には往昔三島江の古蹟を見るべし。今、山崎驛より漸次これを記せんとす。

關戸院址 山崎驛の東北にあり。寶永七年宇多天皇が京城の四境に立てられし四關の一なり。其關址に今關戸神社あり。  
水無瀬神社 島本村大字廣瀬にあり。官幣中社にして、後鳥羽、土御門、順徳の三帝を祀れり。文徳天皇の第一皇子惟喬親王の舊蹟にして、後鳥羽帝も一たび其の離宮と爲したまひしことあり。古來此地を詠せし古歌頗る多し。本社は街道を入る事三町



餘、修竹道を挟みて晷影を洩さず、清淨にして且つ幽寂なり。社内に一茶亭あり、後水尾帝より賜はりしものと稱し、結構古雅を極む。社の前に隆起せる丘陵を廣瀬山又は水無瀬山と稱し、桓武帝及び嵯峨帝の常に遊獵あらせられし所と傳ふ。山頂の眺望甚だ佳なり。

櫻井の遺址 櫻井驛の山崎街道に沿ひて數頃の地、枯松の老幹纒かに存せる所に一大石碑あり。碑面題するに楠公訣兒所の五字を以てし、且つ元本邦駐劄英國公使たりしパークスの文を刻し、周圍に玉垣をめぐらせり。正成が死を決して闕を辭し、遙かに西に下りたる當年の状想見すべし。山崎停車場よりは二十町の地に位す。櫻井の西方西山の半腹に櫻井御所址あり、桓武帝の御宇滿院法親王幽棲の地と稱す。現今地の名族清水氏の後裔、櫻井焼と稱する一種雅致なる陶器を製せり。

能因塚 鐵道線路を西に距ること十餘町、磐手村大字古曾部にあり。能因法師幽棲の古跡にして、傍らに一碑あり、慶安三年高槻の城主永井氏の建立にして、碑銘は林羅

山の撰なりといふ。

金龍寺 同村大字成合村の山腹にあり。寺は天台律院にして、麓より阪路八町にして達す。草創は延暦年間參議阿倍是雄卿にして、後百餘年後念佛上人を再興し、更に慶長七年宗俊法師豐臣秀頼の助力を得て之を復興し、金龍寺と號せり。寺地の西南に遊遊の池あり、一名金龍池とも呼ぶ。後山は金龍寺山と稱し、秋季多く松茸を産す。金龍寺の麓に淺茅ヶ原あり、能因法師美人の死屍に對して和歌を詠せし古跡なりと傳説す。

高槻町 は山崎街道と茨木街道との相岐るゝ所にして、其町より起れる一路は透遊として淀川の沿岸に達し、直に河内なる枚方町と粉壁相望り。町は舊高槻と上田部の二村を合併せるもの、人口三千を有せり。停車場は町の西北天神馬場にあり。

高槻城址 高槻町は維新以前まで永井日向守の領する所にして、同人の據りし高槻城址は市街の西南に存し、今猶城廓及び塹濠の跡を有せり。城はもと近藤忠範の築く

所にして、慶安二年日向守入城せしより以後其世襲居城となれり。址内乾位に當りて野見神社あり、延喜式内の古社にして牛頭天皇と號し、其末社若宮に永井氏祖先の靈を祀れり。

○**本山寺** 清水村大字原村の北にあり。天台宗にして、文武帝の元年役の小角の開基、本堂の背後五町許りの山奥に五水の瀧あり、直下四丈餘、日光斜めに映する時、瀑水五色に見ゆるを以て此名あり。背後の山峰は標高六百四十米突に及べり。

○**上宮天神社** 磐手村大字古曾部の北にあり。此邊は一堆の丘岡にして、神社は其麓にあり。祭神は菅公の靈なり。

天神社の四方三町餘に廣智寺あり。黄檗禪宗にして、聖德太子の創始、櫻院禪師の再興なり。本尊十一面觀音は聖德太子の所作にして、他に隆元和尙の楯額あり。また靈松寺は廣智寺の四方二町餘にあり。曹洞宗にして行基僧正の開基、妙應禪師の再建となす。寺に芥川氏の古墳ありて、寺前の眺閣順る佳なり

○**神峯山寺** 清水村大字原村にあり。役の行者の開基にして、天台宗を奉じ、天武天

皇元年の創建なり。本尊には毘沙門尊を安じ、行者堂、觀音堂、阿彌陀堂等の數坊あり。山は神峰山と稱し、山中林泉の勝に富めり。

○**伊勢寺山** 高槻停車場より二町、歌人伊勢姫を葬りたる地にして、由緒正しく古跡寶物種々あり。遙に山城河内の諸山を望み近く淀川を眼下に見て、風景甚だ佳なり。

○**天神山** はまた停車場より三町、同じく眺望に富み、松茸を産せり。京阪より來遊する者多し。

高槻の名産は古曾部燻、服部烟草、寒天、獨活等なり。古曾部燻は其名高く、往古より、今に至りて益盛なり。此地の松茸は其形大にして味の美なる他に比なし。

○**芥川村** は山崎街道に位し、人口千八百餘を有せり。此地は歴史上著名の地にしてことに足利の末路、三好、松永諸族の據りて織田氏に抗し、叛服常ならざりしところ芥川の清流は清水村大字原村神峰山の溪間に發し、芥川、高槻を経て、三箇牧村字唐崎の東に於て淀川に注ぐ。

富田村 是高槻を去る事十五町、人口千餘を有する大邑なり。

本照寺 富田村にあり。眞言にして、本願寺の僧存如上人の開基、正信房の創建なり。寺の二方は小濠を以て圍み、東南隅に鼓樓あり。また舊本堂址前に富壽榮の松あり、偃臥龍の蟠まれるが如き形姿をなせり。

普門寺 同村の西邊にあり。臨濟禪宗にして、明和元年説巖和尚の開基、明暦年間僧龍溪の再建なり。檐に隱元和尙の扁額を掲ぐ。

慶瑞寺 また富田村にあり。持統天皇の御宇道照法師の開基にして、僧龍溪之を再建せり。本堂に赤梅檀木の觀音を安置す、これ、後水尾天皇の寄進に係はるものなりといふ。

尙ほ普門寺の南隣に三輪神社あり。同じく寛永年間龍溪の再建に係はりて、大物主を祀り、もと普門寺の鎮守たりき。

松永久秀宅址 如是川の北城垣内と稱する地にあり。松永久秀の生れたる地なりといふ。

いふ。

三島江 富田より芥川に沿ひて南下すれに、淀川の流れ溶々として遠く、白帆の去來、風致頗る掬すべきものあるを見る。此附近三箇牧村の地は、昔三島江と稱せし所にして、其沿岸猶その小字残り。古來眞菰、荻等に名高く、歌の名所として雅客の吟に上りしもの甚だ多し。今は茅葺、竹椽數十戸沿岸に錯落して、人稀に烟少き一寒村たるに過ぎざれども、昔三十石船の盛に往來せし頃は、頗る繁華を呈したりといふ。

三島鴨神社 三箇牧村にあり。延喜式内の古社にして、事代主命を祀れり。社は淀川の堤防を距る事わづかに數町、松樹四邊を圍み、自ら別天地をなせり。神社の籬頭、片葉の荻を生ずる事昔に變らず。

玉川 は如是川の下流にして、三箇牧、野々宮の間を西南方に流れ、吹田附近に至りて安威川といふ。此一帶の地は、往古の所謂六玉川の一にして、卯の花を以て顯はれし所なれど、今は全く荒蕪に歸し、芭蕉翁の句を鐫したる斷碑の其間に立てるを見

るのみ。

鳥飼野の舊蹟 玉川の南方、今の鳥飼村の地これにして、古昔鳥飼御牧を以て著名なりし所なり。土佐日記二月八月の條に記されたる其舊蹟は、今同村字下の村近傍にあり。

溝咋神社 三箇牧村字馬場にあり。延喜式内の舊社にして、三島縣主の祖神を祀れり。

藤杜神社 鳥飼村字西の村にあり。郷社にして、淳仁天皇を祭れり。社地淀川を距ること三町ばかり、境内廣濶にして、松樹之を圍み、東北は茫々たる田野に通せり。社内の三本松天満宮は菅公筑紫に遷さるゝ時、舟を寄せて上陸せし舊地として名高し。

江口の里 淀川の岸を更に西南に傳ふこと一里餘、津屋に至れば、神崎川は一大分流をなし、其西岸に往古の有名なる江口の里あり。上古は此地淀川の河口をなし、船舶來航して頗る盛況を呈したりといふ。また高濱は神崎川畔の地名にして、古昔月、

松等に名高く古歌多し。

吹田村 は人口四千四百を有し、交通頻繁に、また三島郡西南の名邑なり。町の南部神崎川に一大橋あり、長さ九十六間、幅六間、明治十一年の架設にかゝりて、宛然虹霓の空に横はれるが如き長橋なり。其西に神崎鐵橋あり。汽車此地に近付けば、其右方に當りて、一大工場の高く煤烟を吐けるを認むるならん。これ關西に於て著名なる大阪麥酒株式會社にして、朝日麥酒は實に此社の製造にかゝはる。吹田より二里にして大阪に至る。

觀音寺 吹田村にあり。高濱山圓通院と號し、淨土宗を奉ず。本尊聖觀音は僧行基の作にして、他に慈覺大師の多門天、聖德太子所作の將軍地藏等を安置せり。

觀音寺の他なほ護國寺。瑞光寺等あり。護國寺は牛頭山と號し、足利義滿の祈願所たりき。また瑞光寺は懐胎を望む婦女參詣すれば顯應ありと稱。

垂水神社 吹田停車場を距ること半里許り、豊能郡豊津村大字垂水にあり。崇神帝



其高さ五丈餘、外面に濠渠あり。全山老松鬱蒼として、頂上に自然石五箇を存せり。もと石棺に用ゐしものならんといふ。なほ附近に太田神社あり。式内の古社なり。また大字耳原の北方毛受野に三箇の古墳あり。皆な高貴の古陵ならんと傳ふ。其北方に幣久良神社あり。其社は鬱然として、天に冲し、遠く之を指點することを得べし。牟禮神社は安威川の堤畔にあり。延喜式に列す。

阿威山墓 土俗將軍塚とも稱す。藍野陵の西北十五町許り、安威村字將軍山の中腹にあり。始め大職冠鎌足公の遺骸を此所に埋め、後大和多武の峰に改葬せりと傳ふ。山は稚松鬱蒼として茂り、字趣中前より上る事一町餘にして、墓に達するを得べし。傍に一祠あり、大職冠神社といひ、鎌足及び其子淡海公、不比等を祀れり。また山麓安威村には安威神社あり。大門寺 石河村大字大門寺村にあり。もと青龍寺といひ、真言宗を奉せり。本尊は如意輪觀世音を安置し、開基を開成皇子となす。境内に豊臣秀次の巨木村常陸介の墓あり。文祿四年常陸介此寺に入りて自殺せしなり。

國見山 石河村大字大岩にあり。一孤峰にして、其形瘤の如く、山容甚だ奇なり。山ただ高からずと雖も、之に登臨すれば攝津河内の山河歴々として眼底に落ち、恰も關東に於ける筑波山に髣髴たり。櫻宮線の長尾停車場より一里半にして達すべし。忍頂寺 大岩より右折して丹波街道に至り、一里許を隔てし所、見山村にあり。孤峰兀如として聳え、遠く之を辨じ得べし。攝北の巨刹勝尾寺の末寺にして、清和天皇御宇の創建にかゝり、實に一千餘年の古刹なり。昔は伽藍宏大なりしも、今は衰微を極む。宗旨は真言を奉じ、本尊には觀世音を安置せり。此附近に高山古城址佐保古城址等あり。真龍寺 福井村にあり。天平二年行基僧正の草創にして、真言宗を奉じ、行基作阿彌陀如來を安置せり。昔は堂宇僧坊甚だ多かりしも、今、大に衰頽せり。背後の山美人山は、眺望に富み、松茸を生じ、楓葉また見るに値するを以て、秋季來遊する者多

勝尾寺は豊川村大字粟生にあり。舊名を彌勒寺と號し、應頂山菩提院と稱す。神龜四年善仲、善弄二僧の開基にして、開成皇子の興立なり。後ち元暦年間平氏追討の際堂宇悉く焼失し、同四年頼朝命を傳へて再建せしむ。寺は實に攝北に於ける一巨刹にして、昔は其盛大なる、紀州の高野山に匹敵せりといふ。宗旨は眞言宗を奉ず。境内本堂の他に、講堂、仁王門、輪藏、開山堂、二階堂等あり。本堂には沙門妙觀作梅檀香木の十一面觀世音を安置す。西國巡禮二十三番の札所たり。また二階堂には惠心僧都作阿彌陀佛を奉安せり。其他寺寶として法然上人自書贊の畫幅を藏せり。入口の華表は遙かに山崎街道の新屋村にありて、三十五町餘にして山門に達す。境内幽邃にして、堂塔高く雲表に聳え、寺後は巨樹大木亭々として、千年會て斧斤の痕を見ず。なほ秋季に至れば、満山皆紅葉を着け、其美容易に名狀すべからず。來遊するもの、また甚だ多し。

勝尾寺陵 勝尾寺の東内字東谷にあり。光明院御廟と稱す。光明院は後鳥羽帝の皇子豐仁親王なり。延元元年足利尊氏親王を奉じて帝と稱す、天授六年崩御ありて此地に葬す。元祿年間公命によりて柵を設け、今巨石を以て其表標となせり。

茨木驛より吹田驛に過れば、南方の平野大都會の烟臺瓦葺の鱗次として相連るを見るべし。これ東洋第一の商業都なる大阪市なり。東京より汽車急行時間十六時間程なり。大阪停車場は市の北部梅田にあり。新橋驛と共に沿線中の二大驛たり。

○大阪市 國の南部、大阪灣頭に位し、西北は西成郡に接し、東南は東成郡に連る。東西二里十七町、南北二里二十四町、面積三方里、人口百一萬餘を算す。地勢概して平坦なれど、東部に稍々隆起し、一帯低き丘陵性の臺地を爲す。今の大阪市街ある處は往昔蒼波の打寄せしところにして、宰相山、眞田山、大阪城址等の丘陵は其波打際を成せしこと、地形及び歴史上に明かなり。即ち大阪市は淀川三角洲の發達して成れるものなり。淀川は長柄より分れて市に入り、猫間川を合せ、中の島に至りて土佐堀、

堂島の二川となり、復合し、復別れ一は木津川となる。本流安治川は北區の一角に川口波止場をつくりて、海より來て物貨を吞吐せしも、今や築港成りたるが爲め、全く閑却せらるゝに至れり。木津川は南に流れ、沿岸所々に和船の碇泊所を置設し、木津川町には、東京深川木場に髣髴たる材木河岸をつくり、南恩加島町に至りて、新築港埋立地の東を割りて海に入る。築港の地は安治川と尻無川との中間に位せる地にして、東端九條町より港頭まで延長一里、電車は直線に港頭に向つて一直線に走るを見る。築港は内外二港に分ち、南北突堤あり。其合する處鈎形を成して相迫り、港口を成す。棧橋の長さ二百五十間、水深優に一百噸の大船を碇繫せしむるに足る。市は市街に由り、東西南北の四區に分ちたれど、古來呼び來りし名稱ありて、安治川以北を天満といひ、蜷川以北を北の新天地といひ、中央部を船場、島の内と稱し、南部は難波新地と言ひ、西部には堀江、立賣堀、阿波座等あり。その最も繁華なる地は、船場、島の内にして、淀屋橋通、心齋橋通最も繁昌を極めたり。船場には大問屋、大銀行多

く、自づから市の金融市場を爲し、堂島中の島に、官衙等數多し。大阪府廳と大阪市役所は西區の東部木津川橋附近にあり。北區の一部京町堀附近には舊幕府時代に於ける大阪風の繁華猶存せり。南區には大阪の淺草とも稱すべき千日前あり。道路は布置正しく、横を筋と稱し、縦なるを通といふ。而して里程元標は東區の東横堀に架したる高麗橋にあり。鐵道は官線を主とし、湊町を發して今宮、天王寺の二驛を市中に有する關西線、櫻宮驛を發して大和木津に至る櫻宮線、汐見橋を發足點とせる高野線、梅田を發して市の東部を一週せる城東線、難波驛を出て、和歌山地方に赴く南海鐵道、梅田より安治川口に至る西成鐵道等あり。線路紛糾して、宛然蛛網の如し。其他大阪市と神戸市を連續せしむる阪神電氣鐵道あり。市中にも電車既に開通す。

東京府	百四十三里廿六町	守口(河内)	二里三十町	茨城	五里九町
京都府	十三里一町	尼ヶ崎	四里四町	高槻	六里三十一町
奈良縣	十七里二十二町	西ノ宮	五里二十七町	伊丹	二里二十三町
和歌山縣	十七里二十二町	神戸	九里廿一町	池田	六里十八町

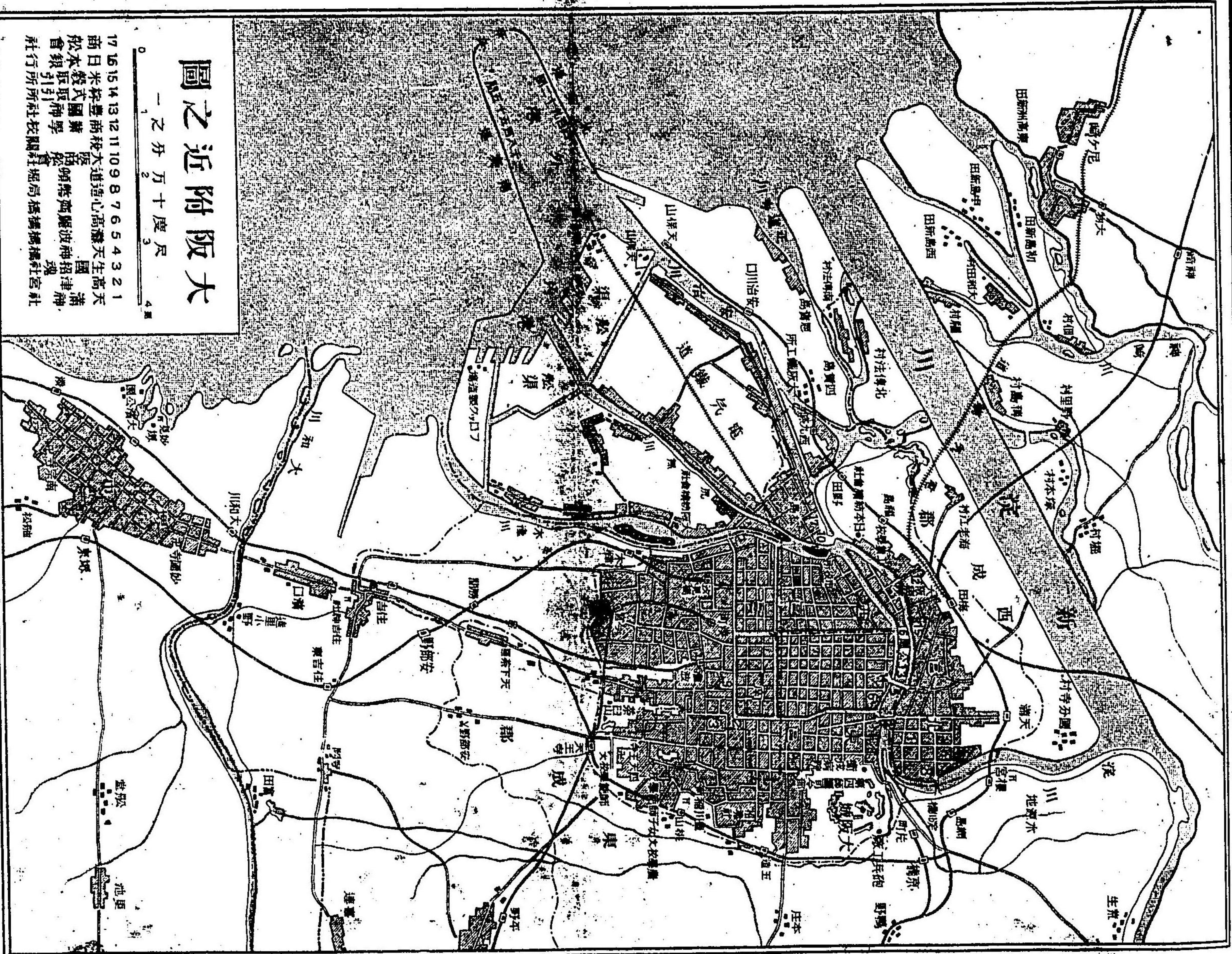
攝津國



兵庫縣 九里町三十町 兵庫 庫 十里二十町 有馬 十三里卅三町  
 滋賀縣 十五里二十六町 明石(播磨) 十五里十町 篠山(丹波) 十六里四町

大阪市の沿岸は地理上頗る興味あり。今大日本地誌中より、その一節を此處に引かん

史前時代において、今の大阪市街が全く海中にありたるは勿論、初めて其の地名の歴史に顯はれたる神武天皇時代に於ても、海灣遠く内地に入り、今の繁華なる市街の大半は、全く蒼波の底にありたるに驚かざる能はざるべし。史に言ふ、神武天皇即位紀元五十八年二月、天皇東征し、舳舻相銜みて、難波の崎に到らせ給ひしに、會々奔潮大だ急なり、因て此の國を浪速と名づけ給へり、亦、浪華とも言ひ給へりと。蓋し當時の地形、今の尼ヶ崎附近より南方住吉の邊に至りて一大灣を爲し、淀川・大和川其の他河内の諸水、今の江口・神崎の附近に集注し、河水海潮相激して、舟師を避るに大だ便ならざりしより、かく名づけ給ひしなるべし。天皇はかくて淀川(當時は山城川と呼びき)の河口自肩(今の枚方)に上陸し、遂に大和の國に國の礎を立てさせ給ひぬ。所謂難波江の當時の地形を想像すれば、今の長柄・本莊より大阪城址の立てる丘陵の麓



大阪附近之圖

一之分 万十度 尺

17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 前日米穀商社大連道心高瀬天生高天  
 株式会社國業 阪 明徳西園波神招津神  
 會銀引引 泉 具 經局橋橋標標社宮社  
 社行所所社技關社 具 經局橋橋標標社宮社

一帯の地には着波來り涵し、その丘陵の突角を難波の崎を呼びたるが如し。而して當時三角洲の發達して島嶼をなせしもの三個あり。其一を媛島と稱して、今の安治川と尼ヶ崎との間に位し、一を笠縫の島と稱して難波の崎より稍々東南に灣入したる高津の東方入江の中（今の深江附近）に位し、一を大隅の島と稱して、山城河の河口（江口の南、大道村と稱する地）にありたりと傳ふ。其の後、次第に年代を經過するに従ひて、淀川・大和川其他河内の諸水の年毎に流出する淤泥と砂石との爲めに、灣内漸次に淺く、遂に幾多の洲渚を作り、陸地は愈々増加して地形上の變化を來せり。

神武天皇東征以後八百九十三年、應神天皇二十二年に當りて、天皇難波に幸し、大隅宮に住居し給へり。大隅宮の所在に就きては、或は大隅島と稱し、或は江口村の南西の地と稱し、諸説紛々として斷じ難けれど、大阪城誌の著者は、地形より斷じて、難波の岡陵たる今の大阪城一帯の地にありたるならんと言へり。されど、其の宮の所在地點に就いては、今、得て詳かにすべからず。天皇此の宮に在ますこと十九年にして崩御し、皇子大鸕鷀尊・菟道皇子と相ひ讓ること三年にして、初めて位に即き、其元年正月を以て都をこの難波の地に奠め給ひぬ。有名なる仁德天皇の高津宮は即ち是にして、大阪に於ける古代の沿革中、最も緊要なる事

蹟なり。天皇即位の皇居は、應神天皇の大隅宮なりしや、將た、新に築かれたる皇居なりしや詳かならざれども、其の即位の四年二月には、高臺に登りて民の貧しきを憫み給へることあり。其の後、七年を経て、民富みて、家に餘儲あり、里に餘食なきに至れるを以て、民、自から進みて税調を賈し、宮殿を修せんことを請へり。天皇初めこれを聽し給はざりしも、終に即位の十年十月に至りて、新宮造營の工を起させ給へり。かくて天皇此の新宮に居ますこと七十七年、崩御の後、久しからず墨江仲皇子の亂あり、宮殿爲めに全く灰燼となり了りぬ。此の皇居は今の大阪城址一帶の丘陵中、御殿山(今、宰相山と言ふ)にありたりと稱するは眞に近く、其丘上數株の老松矗立せる中に仁徳天皇の祠ありしは、蓋し此附近の地を古來天皇の宮址なりと稱せし口碑の存せしに由れるなるべし。難波舊地考に曰へり、「高津宮の御跡を或人の考に今の大城の所ならんと言へり。中略、されど多くの古圖に就いて考ふるに、天王寺の北東味原山小橋の南に高津といふ所見えたり。是やがて今の東高津村なり。こゝをしも高津と言へるは、西に三津の江ありて、大江の岸よりしていと高く、大江の岸といふは今の上町の西東横堀の東にて上古は墨江までつゞきたる岸と見えたり東に猪甘ノ津ありて猪飼の岡より西は高し、東西の津の間に有て其地のいたく高ければ、高津の號はおふしけむ、し

からは仁徳の御宮所は此地なるべくおもへるに、或人云この高津村の邊にや、高き岡ありてそを御殿山といふといへり。(今は其麓に桃を多く植ゑたれば桃谷といふといへり)是や高津宮の御遺跡なるべきに決れりと。

是に由りて當時の光景を想像すれば、高津皇居の西南には、難波潟の美しき海を展開し、北には淀川、大和川等汪洋として海に注ぎ、東南には鹿の聲聞ゆる(天皇の御製に見ゆ)菟饒野を隔て、河内國の諸市邑を望み、頗る風景に富みたる地位にありたるを想像するに堪へたり。されば天皇の高臺に登りて、民の煙の質しきを望み給ひしも、自から東南の河内の諸邑なりしことを推すべく、當時は今の大阪市街の大半は難波の中にありて、其の丘陵に沿ひたる一部も、荒涼たる漁村或は洲渚なりしならん。

當時、天皇の御製に、阿佐豆磨能、遮箇能鳥瑳箇及び那珥波譬苦の語あり。これ、大阪古代の沿革を研究するに、頗る緊要なることに屬す。この鳥瑳箇は即ち小阪にて、當時既にその地名の存したるを知るべく、那珥波譬苦の歌によりては、此の時に地名を冠して呼ばるゝまでに發達せる聚落ありしことを推し得べし。殊に、この「おさか」なる部落の名稱は、以後屢々歴史にも散見し、今の大阪の繁華は、この難波の岡陵の西

面なる小阪の地より次第に發達し來りたる明かなる證據を有するをや。試みに問へ、文字に於てこそ大阪の二字を用ゆれ、大阪市民は今日猶「おさか」と稱して、決して「おほさか」とは發音せざるなり。而して其の字面の小阪に轉せしは、明應年間、僧兼壽が本願寺を此地に創めし頃のことに屬す。

仁徳天皇の朝、猶此の地に關して、記すべきこと一あり。即ち、即位の十一年四月に、堀江を開鑿し、河道を疏通せしむることを詔し、十月に、その治水工事に着手し給ひしこと是なり。これ、其の地形の河川縱横、霖雨に逢へば、海潮逆流して、巷里船を乗せ、人民泥濘に苦しめるが爲めにして、先づ、宮北の地に堀江を開鑿し、河内國其の他南部の諸水を引きて、西の方難波の海に朝せしめ、又、山城河の氾濫して河内地方の洪水の害を與ふるを拒がん爲め、山城河南下の衝とも稱すべき河内國茨田の郷に堤を築き（これ、即ち今の淀川堤防にして、茨田郡（今、北河内郡）牧方を起點とし、順次下流に築き立てたるものなり）又、宮東の地に、小橋の江を堀り、因りて以て河内國の諸水を北の方淀川に疏せり。又、十三年十月、河内の和珥池（石川郡）を造り、横野堤（澁川郡）を築き、十四年、橋を小橋江の猪甘津に架し、宮の南門より河内の丹比の邑に直指する大道を作り、京中にも數多の大道・小道をつくりて以て交通の便に供せり。

仁徳天皇の堀り給ひし堀江を今の淀川なりと言ふ人あれど、そは、今、味原池と稱する地點に當り、その堀江は中古まで二條の痕を存して残りたりといふ。即ち一は慶長年間まで梅津川の稱を保ちて現今に於ける道頓堀の上流を爲したるもの、一は、天王寺の北、毘沙門池の邊より西方、逢坂の清水、合邦の辻の邊に流れたるもの即ち是れなりきといふ。又、小橋江と稱するは、今の下小橋の邊より百濟川の末流を拓修せしものが、さらすば百濟川末流の舊水路を轉じて、更に此の附近より新水路を開鑿せしものなるべし。現に、この小橋江の猪甘津に橋を架して、そを小橋と稱したるを以て推すべし、而してこの諸堀江及び小河流には、當時皆官船を匿きて、以て人馬の交通に供せられたりと覺しく、孝徳天皇の時代に以ても猶そのことあるを明記せり。殊に、面白きは、明治十一年、大阪府廳が難波村澁川を開鑿して、ゆくりなく玉もくの橋を以て造りたる割木舟を發掘せしこと是なり。この澁川は恰も仁徳帝・桓武帝の開鑿せし水路に當り、その割木舟亦千五六百年以前の物たるを認定せられたるを以て、其の時既に此種の舟盛に製造せられ、渡船として、または遊興の舟として、其の時代の人に用ゐられたるを推するに足れり。以後百四十一年を経て、欽明天皇即位の元年九月に、難波祝津宮に幸せられたることあり。されど其の皇居は仁徳天皇以來連續たるものなりや、將

にその所在地の異れりや否やを知り難し。其後、推古天皇の二十一年に至りて、此の難波より大和の京師(奈良)に至る大道を開き給ひ、後三十二年を経て、孝徳天皇は都を此の地に遷し給へり。天皇は大化中興の英主、其都を此の地に遷すに先ちて、種々なる計画を建て給ひしごとく、京坊の制、大小中郡の副員を定め、七年の後、始めて新宮に遷り給へるを見る。而して此の七年の間、天皇は暇暮の行宮・小郡宮・味經宮等の假皇居に住居あらせられしもの如く、新宮の規模大なりしだけ、その建築にも長き月日を要したるに似たり。蓋しこの皇居は規模頗る宏壯にして、あらゆる官衙をも其中に置かれたるは勿論、市街また繁華の趣を呈したるは疑を容れず。後天武天皇の時に至りて、此の難波の都に攝津職を置き羅城(總曲輪)を築き給ひしことあるを見ても、歴代の天皇皆此都に重を置きたるを知るに足るべく、従つて、桓武天皇平安の建築にもこの難波長柄宮の面影を残したることを推知し得べし。而してこの新宮、及び他の諸假皇居は皆な高津宮の所在地たる一帯の岡陵中にありたるがごとし。

蓋し歴代の天皇の此地に意を留められたるは、明かなる事實にして、或は風光を賞して滞留數日に亘り、或は公卿を會して歌鐘を開きし等、此地が皇居ならざりしまでも歴代天皇の優遊地たりしことは争ふべからず。ことに、聖武天皇の如きは最も深くこの難波京師を愛させ給ひ、神龜二年以後四回の行幸あらせられたる後、遂に一度此の地に都を遷させ給ひぬ。されど百姓の懇願黙止し難く、翌十七年再び平城に遷幸あらせられたり。桓武天皇、都を平安に奠むるに及びて、攝津職を停めて、國となし、國府を置かる。此の時より難波京師は全く廢せられて、其の制他の大國に準せらるゝに至りしなり。其後、仁明天皇の朝、鴻臚館を置きしも、以來此の地の管理頗る等閑に、明應年間、僧兼壽が石山本願寺の基礎を定むるに至るまで、其間五百有餘年、いかにこの一帯の地の發達せしかを知るに由なし。

○北區 市の北部に位し、北は西成郡に接し、新に開鑿せられたる新淀川は其西北を流れて、溶々として海に入る。而して淀川の舊流は東北より來流し、區の東を包みて漸く西に折れ、難波橋に至りて別れて土佐堀川、堂島川となり、其間に中の島を挾みたり。

梅田停車場 本邦鐵道幹線の大驛たる梅田停車場は、區の北部にありて、近畿地方陸運の中心をなし、各方面より連絡せる汽車の發着頗る頻繁に乗降の客常に雜沓を極

む。この地、昔は沼澤なりしを二三十年以前之を埋立て、火葬場となせしが、後更に停車場の建築を見るに至れり。停車場の構造は本邦有数の大建築にして、附近には各旅店、商肆軒をつらねたり。

堂島 梅田より南すること數町にして達す。此地古來より著名なる米穀取引所ありて、毎朝の繁華、東京に於ける蠣殻町と異なる事なし。此附近、測候所、商業會議所、商業學校等あり。商業會議所の隣れる商品陳列所は、其設備頗る整頓し、材料また豊富に、本邦有数の商業博物館と稱するに足る。然るに惜い哉明治四十二年七月三十一日拂曉、市の大火に此等の建築の大部は悉皆烏有に歸したり。

名所園會に云ふ、堂島の市たちは米穀を纏繞なり、市人街頭に集り、指頭を播して高下の幅をさうばして、之を又須臾にして達き園まで知らずとかや、此始原は北濱の富商淀屋巨庵豊臣氏の軍糧を掌る事身久しく、嘗に諸國の米粟穀多を買積み、己が家の前なる橋爪に毎朝市を立て、諸人に南ふ。此家断絶の後、其遺風を以て日々市を立つ。堂島は近世五花堂と云風流者、京洛より移り來り、此に佐して花木をたのしむ、其頃は野原なりし



中島公園

を、貞享の頃公命により市街を開く。五花堂の事羅田文集に見ゆ。堂島の米商穀價の權衡を持って海内を動せる事は、幕政庫邸時代を最盛とす、今も猶其の餘力を存じて盛なり。

大江橋 は堂島川に架せり。此附近は往昔楠正成が六波羅勢を破りし古戰場なりとす。明治四十二年の大火に焼失墜落せり。

中の島公園 中の島の東端公園をなせり。長さ約五町、幅一町餘、規模狭小にして、園内鬱葱たる老樹を見るよしなしと雖も、位置の樞要を占めたるを、公園としての設備や、完きを以て、士女の來り遊ぶもの多く、市中第一の遊園地たり。近時大阪園

書館、大阪公會堂等建築せられ、また豊太閤の銅像も建てられ、益々遊賞の客を増せり。園を挟む二流、一を堂島川とし、一を土佐堀川となす。土佐堀川には淀屋橋を架せり。橋の邊は豪商淀屋辰五郎住居の址なりといふ。

●豊國神社 は公園の東端にある別格官幣社にして、秀吉公の靈を祀り、明治十二年の創建なり。本社の南に末社白玉稻荷あり。社殿境内甚だ清洒にして、地域櫻樹多く、萩また少からず。門前に木村長門守の記念碑あり。遠く錦城の天主閣と相對して、共に人をして豊臣氏の偉業を追想せしむ。此附近には大阪ホテルあり。大阪圖書館は花岡石造の宏屋にして、富豪住友氏が市に献納したるものとす。

●難波橋 東區北濱より北區樋上町に架せる一大鐵橋にて、延長百十五間を有し、中間山崎鼻を以て二分せらる。山崎鼻は中の島の東端にして、俗に劍先と稱せり。昔時は一橋なりしと、維新後中の島を東に延長するに當り、中腹を截斷せられしなり。橋上眺望に富み、殊に夏日納涼の好場所なりとす。其納涼の様、山崎鼻より河心に一大

納涼臺を設け、各種の遊戯物、飲食店等具備して、遊客數千人に上り、水中また一大遊園に開けり。

中の島公園より西に堂島河岸を傳へば、巨館高閣相連り、中に、淀屋橋筋に面して、日本銀行支店、郵便局等あり。共に宏壯なる建物なり。

渡邊橋より以西は、學校、病院、會社等相連り、大阪醫學專門學校、大阪病院、高等工業學校、大阪電燈會社、大阪商船學校等あり。其他、常安橋畔に稅務署、堂島大橋畔に製紙場あり。

●福島 堂島大橋を渡り、合羽島を過ぎて、福島に達す。福島には紡績會社多く、日本紡績會社、福島紡績會社等の大工場ありしも、これまた明治四十二の大火に悉く焼失せり。梅田停車場より分れて安治川河口に達する西成鐵道は、三島町に福島驛を置けり。

●福島天神社 は上福島町二丁目、上福島町三丁目、下福島町二丁目の三箇所ありて、共に菅原道眞の靈を祀れり。菅公左遷の折、此所より船出ありし舊蹟なりと傳ふ。

逆櫓の松 上福島舊名橋爪町の北側にありしも、松は今枯れて、橋爪町なる杉本氏其根幹を所藏せりといふ。松の邊りは、義經、景時が逆櫓の論を戦はせし所なりと傳ふ。

五百羅漢 は上福島中三町目妙徳寺にあり。著名なる古刹にして、堂宇の結構全く支那風を模せり。宗旨は黄檗宗を奉じ、僧行基の開創、天祿年間鐵梅一度之を再建し、翌年、其師僧開源を支那より招請して中興開山となせり。龍王山と號す。明治四十二年大阪大火に、山門樓上を初めとし、羅漢堂、辨天堂、大師堂、庫裡、鐘樓等寺院の全部は悉く灰燼に歸したり。五百羅漢また罹災し、大師堂の弘法大師像其他什器寶物を僅に井に投じて免れし他、凡て焼失せり。

了徳院 五百羅漢の西方數町の所蔵洲村大字浦江にあり。俗に浦江の聖天と稱す。本堂には歡喜天を祀り、なほ境内に庫裡、額堂等あり。天文年中僧有意の再建に係り、境内池水の杜若名高し、寺の傍側妙壽寺には藤原廣道の墓あり。また了徳院の東村大字大仁に王仁の墓と稱するものあり。

野田の藤 五百羅漢より西成鐵道の線路に沿ひて西南に下れば、其附近一帯を野田と稱せり。野田の藤は、往古、足利義詮、豊臣秀吉の來觀せし遺跡にして、藤棚近傍に、春日神社、藤の庵等あり。野田のかげ藤とて名高し。春日神社の境内に小池の址あり。足利義詮が野田の玉川に擬して和歌を詠せる舊跡なりとす。

圓満寺 春日神社の南隣に當り、玉川町にあり。天文元年佐々木定頼日蓮宗の僧徒と共に、本願寺の澄如上人を山科の御堂に攻む。上人逃れて此所に來りしを、定頼等尙ほ追撃して止まず、野田、福島の間徒各一命を投じて防戦し、終に上人恙なきを得たり。圓満寺は即ち其舊蹟なり。今猶極樂寺に上人自筆の感謝狀を存せり。

鐵工所 範多龍太郎氏の所有にして、安治川北通の絶端、春日橋畔にあり。船渠、鐵工場等の設備頗る完全し、千噸以上の海船を製造し得るといふ。

川口波止場 安治川橋の西部、福島町の地もまた北區に屬せり。川口波止場は其沿



岸にありて、關西水運の中心をなし、近海航路に屬する淺吃水の汽船は深く安治川を溯り、爰に來りて碇泊するもの其數を知らず。之に加ふるに和船の帆檣林立し、幾多の汽船會社、運漕問屋は其岸に櫛比し、船客の來往、貨物の出入頗る繁華の光景を呈せり。就中、大阪商船會社は其主要なるものにして、汽船は主をして關西地方の水運を始め、此港の主要貿易たる清韓貿易の衝に當れり。輒今西區に築港工事起り、着々竣功の途に近付きつゝあるを以て、此川口波止場の繁盛も次第に西漸するに至るならむ。

更に梅田停車場に選りて、區の東部を觀んに、此方面は

會根崎 北野及び天満と稱し、其繁華は船場、上町、島の内等に及ばざれども、商賈櫛比し、工場また少なからず。これ、また明治四十二年の大火に殆ど其全部を焼失せり。

露天神社 蜷橋の北會根崎上二丁目にあり。俗にオハツ天神といふ、遊女お初が心中の物語より起りしなり。社は少産名命、菅原道真公を祀る、郷社なり。傳へ言ふ、

菅公筑紫へ左遷の折、福島より上陸して此地を過ぎしに、たま〜路上露滋かりければ『露と散る涙に袖は朽にけり、都のことを思出れば』と御詠ありし舊地なりといふ。

寒山寺 露天神社の東北にあり。禪宗にして、有名なる梵鐘を吊し、大本堂に姑蘇名刹の額を掲ぐ。境内の地藏堂は日限地藏と稱し、賽客群集す。

太融寺 露天神社の東北六町許り、西寺町の北にあり。桂木山と號し、古義眞言宗なり。弘仁年中僧空海の開創、承和年中源融の命により、海仁上人の再興せる古刹なり。諸堂壯大、春日作千手觀音を本尊とせり。境内、大師堂には香火常に絶えず。他に淀君の墓、藤棚等あり。淀君の墓は九重の塔にして、高さ一間餘を有す。また東門の傍に料理店あり、小酌を取るによろし。

綱引天神 太融寺の東北數町にあり。北野にあるを以て、一に北野天神ともいふ。菅公左遷の途次此所に来り、綱を敷物として、難波の梅を愛賞せられし舊跡なりと傳

ふ。菅公の他に嵯峨天皇をも並祀し、本殿、拜殿等頗る美なり。社に隣りて監獄署あり。四面高牆をめぐらし、構造宏壯なり。

北野凌雲閣 九層の高閣にして、高さ二十二間を有し、俗に北野の九階と稱す。樓上の眺望爽快なれども、近年頽廢して振はず。附近、觀月によく、また萩花及び棠花の名所となす。

天満宮 著名なる天満宮は天満大工町にあり。天満驛より南方十町にして達すべし。府社にして、菅公の靈を祀れるは世人のよく知る所、末社には蛭子神、猿田彦、手力雄命、野見宿禰等を鎮せり。往昔天曆年間此地の北方に天神山あり。里人其の叢林中より靈光の發するを見て、奇異の思ひを爲し、神官をして之を鎮せしめしに、是れ即ち菅公の靈難波の梅を慕ひて影向ましませしなりと告ぐ。里人崇敬して祠を天神山に營み、後ち寛文年間今の處に移して、土地の生土神とし、其地をも亦天満と稱するに至れり。今の社殿は明治三十四年の修築改繕にかゝはり、結構壯麗にして、市中有數

の神社たり。境内また廣濶にして、賽人日夜に絶えず。社後一帯の地は諸興行物多く、恰も東京淺草奥山の繁昌と相似たり。一月二十五日の初天神、七月二十五日の夏祭、十月二十五日の秋祭等、孰れも庶人群集し、殊に夏祭の盛況に至りては、市中之に比ぶ可きものなく、銚流しの神事と稱へて、神輿を舟に載せ、大川を下りて松島の旅所に渡御す。秋祭また夏祭に譲らざる大祭典なり。

興正寺天満別院 天満宮の東北に當り、河内町一丁目に位す。俗に産寺と稱して、眞宗興正派に屬せり。寺は天満郷中最古の梵刹にして、阿彌陀如來を本尊とせり。

鶴滿寺 は天満驛の北三町、南長柄村にあり。雲松山慈祥院と號し、天台宗を奉せり。創建年月久遠にして詳かならず、本尊を慈覺大師作阿彌陀佛となす。本堂の傍に古梵鐘あり。また境内の絲櫻は其名高く、騷客の來り賞するもの多し。鶴滿寺附近に國分寺あり。神龜年間僧行基の開創にして、眞言律宗に屬せり。

長柄近傍 には昔の長柄橋ありしならん、今も南長柄の西方に鶯塚殘れり。其他、

孝德帝皇居の所たりし豊碕宮址及び武甕槌命を祀れる鹿鳥神祠あり。日羅の塚跡あり。

夕日天神 或は神明宮とも稱せり。露天神社の東三町許り、老松町の裏手にあり。

郷社にして、天照大神及び豊受太神を合祀す。東區の朝日天神に對比して、夕日天神と呼ぶなり。社祀によれば、弘仁年間源融の創建にして、文治中、義經、景時逆櫓の論争に、義經當社へ黄金を寄附して祈願を籠めし所なりと。後、後醍醐天皇屢々行幸あり。當時は巍々たる大社なりしも、尊氏の時兵燹に罹りて、爾後漸く衰頽し今は

纒かに舊觀の面影を存するのみ。

平八郎 宗因の墓 大鹽平八郎父子の墓は、天滿寺町橋東詰誠正寺にあり。西山宗因の墓は、天滿西寺町西福寺内にあり。

大阪控訴院 は難波小橋の傍らにあり、赤煉瓦の宏壯なる建築なりしか、これ又四十二年の大火に、附近なる北區役所と共に灰燼に歸し去れり。

天滿青物市場 控訴院の東方太平橋より天滿橋に至る一帶の地には、乾物、魚類、

青物の市場ありて、毎朝其値段を呼上ぐるの聲喧しく、一種名狀すべからざるの繁華を保つ。殊に、天神、天滿兩橋間の青物市場は、頗る古き沿革を有し、西區の雜喉場

生魚市場と共に、大阪市の兩市場と稱せらる。

造幣局 は川崎にあり。これ、大阪市に於ける洋館の嚆矢にして、石垣高く南北二十四町餘、地形弓形をなせり。中には數棟の大夏相列びて、精製したる貨幣地金を溶解

する所、地金を伸張して切斷する所、文字及び紋章を打込む所まで、各課分擔して其職に當り、秩序整然として一絲紊れず。實に我國唯一の貨幣鑄造所たり。遊客にして、

もし内部觀覽を欲するものあらば、毎火曜日局員の紹介あるもの、及び前日迄に直接願ひ出づるものに對し、觀覽許可の切符は與へらるべし。尙ほ庭内櫻樹多く、毎年其

季に及べば、三日を限りて、局表門より域内の通り抜けを許さる。

泉布觀 造幣局の北にあり。調度善美を盡したる建築物にして、邸内櫻樹多く、また景勝の地たり。こは、初め造幣局に屬して、其應接所用に充てられしものなるが、

明治五年に至り西巡の際、此所を所在所と定め給ひ、今の名稱を給はりしなり。後又屢々行幸あり。二十四年宮内省の所管に移されたり。近時大阪美術協會は官許を得て、茲に美術繪畫展覽會等の會を開き、庶人の縦覧に任せたり。更に泉布觀の北隣に三菱製煉所あり、貴金屬製煉を業となす。

**淀川橋** 泉布觀前より對岸櫻の宮へ通ずる長橋にして、明治三十五年十月の創設に係はり、橋上四季の眺望とりくみに佳なり。橋の延長實に百三十六間餘を有す。上流源八の渡ありて櫻の宮に達す。

**櫻の宮** 天照大神を奉祀せる郷社なり。造幣局泉布觀と相對し、淀川に蔽みて風景頗る佳なり。宮の附近淀川に沿へる長堤には櫻樹多く、花期は堤の上下に小屋建て並べられ、傍ら競馬場の設けありて、賃馬あり。流れに端艇あり。遊人雜沓、蓋し市中櫻花の最たるものか。東邊の菜花また一層の風趣を添ふ。

**水源地** 櫻の宮停車場の北半町にあり。大阪市水道の水源にして、其構造設備頗る

完成し、淀川の水流を吸上げて、此所より大阪城内貯水池に發送し、以て市内に給水するなり。

**網島** は猫間川、寝屋川の二支流と淀川との會流點にありて、櫓聲帆影、頗る景致に富めり。故を以て、富豪の別墅此所に多く、旗亭また妙なからず。

**大長寺** 網島より櫻の宮に達する道路にあり。櫻の宮停車場より南三町にして至るべし。淨土宗にして、惠心作阿彌陀佛を本尊とす。境内に鯉塚、比翼塚あり。比翼塚は名高き小春治兵衛の墓にして、今寺内に兩人の遺書を藏せりといふ。また、寺の北邊に和佐止義利と彫れる一碑あり、明治十八年洪水の時故らに堤防を切れる所なりといふ。

**母恩寺** 櫻の宮停車場の北方四町にあり。淨土宗の比丘尼寺にして、仁安三年後白河天皇御母待賢門院菩提の爲めに建立あらせられしもの、天正中兵燹に罹りて、爾後頽廢せり。境内の蓮池は有名にして、また例年成巳金の目には參詣者多し。



治五年大阪鐵橋は此所に設けられ、更に第四師團の本營を置かる。

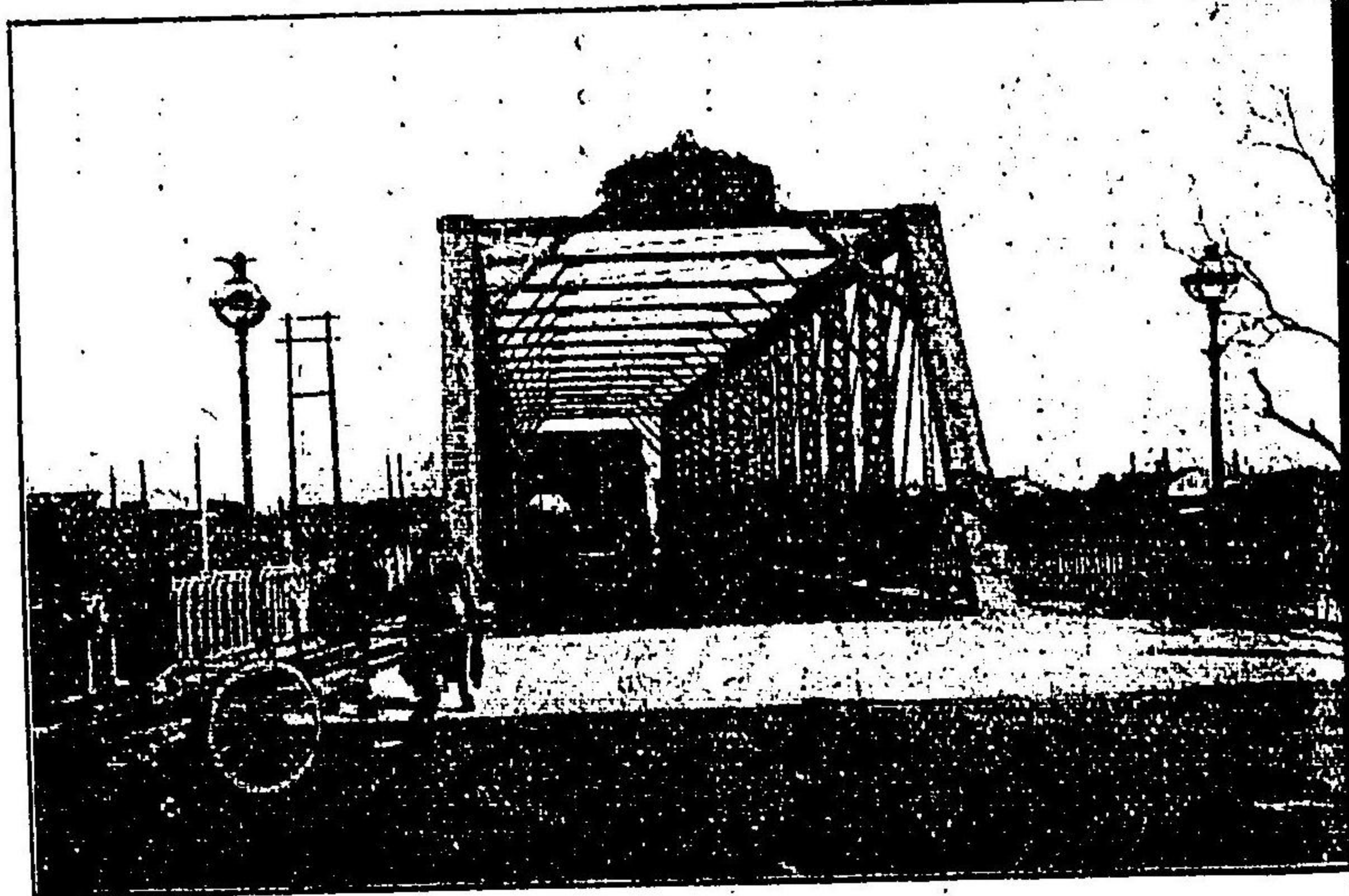
貯水池 城内天主閣の下にあり。大阪市民の飲料水は櫻の宮の水源地より此地に來り、其より鐵管を縱横に通じて、以て市中を貫流するなり。

偕行社 城外北にあり。構造清楚にして、時に至尊の行宮たりし事あり。其志門の傍に明治紀念碑あり。もと中之島公園にありしを、此地に移せしものにて、西南役に於ける當師團戰歿者の靈魂を合祀す。

城外にはなほ各兵營、衛戍病院等あり。城南及び城東には廣藪なる練兵場あり。

砲兵工廠 は城の東北、青屋口の一角にありて、規模頗る大に、烟突の煤烟、機關の運轉坐るに人をして眼を刮せしむ。猫間川は工廠の北を流れ、屈曲して淀川に注げり。これ、往昔大和川の水路なり。かくて城外の地を西に廻れば、猫間川の淀川に注がんとする所に京橋あり。

天満橋 は其下流數町の所に架し、東區上町八軒家より北區天満へ渡れり。長さ百



天 満 橋

十七間餘、幅六間、明治二十一年の架設にかゝり、天神、難波の兩橋と併せて、大阪の三大橋といふ。高欄其他凡て鐵製なり。

八軒家 天満橋より天神橋に至るまで、南岸の稱なり。この地、往昔の大江の岸の跡なりと傳ふ。殊に此名の起れる所以は、維新前此所に八軒の旅店ありて、京阪上下の旅客を宿泊せしめ、三十石船の船着所たりしに由れり。今日其形見として、淀川汽船株式會社あり。數隻の小蒸汽船を用ひて大阪伏見間を日毎に往來す。

天神橋 は天満橋の西方大川に架する市

内最大最長の鐵橋にして、長さ百三十一間幅六間を有せり。天満橋と同じく、明治十年の洪水以後、時の大阪府知事建部郷三氏の英斷を以て、十五萬の巨費を投じ、明治二十一年竣工す。構造の雄偉外觀の莊麗なる、海内無双の長橋と賞へらる。天神橋の下流に於て、溝渠の南に通ずるもの、之を稱して東横堀といふ。東横堀の淀川に會する所、其西岸の一角を築地と稱し、旅館旗亭相連る。

高麗橋 東横堀に架せらる。大阪市鐵橋の嚆矢にして、橋畔に里程元標を立つ。橋の西畔を高麗橋筋一丁目、東畔を兩替町と言ひ、西畔の南側に城櫓の如き一屋あり。俗に之を櫓屋敷と稱し、昔は北畔にもありしなりといふ。高麗橋の大阪に於けるや、猶三條大橋の京都市に、日本橋の東京市に於けるが如く、交通起算の中心をなせり。殊に今橋、北濱附近は、大阪市に於ける金融市場の中心と稱すべく、株式取引所を始めとして著名なる銀行、會社多く此所に集り、北濱銀行、鴻池銀行、三十四銀行、住友銀行、日本生命保險會社、商業興信所等皆其附近にあり。北濱の西、大川町には旅館薈を列ぶ。

高麗橋通 高麗橋の西より西横堀に通ずる地を稱す。繁華の街路にして、各種の大問屋軒を連ねたり。伏見町通また大商賈の塵舗を構ふる者多し。

道修町通 この通りには藥舗の軒を並ぶること、恰も東京に於ける本町通の如し。府立大阪博物館 は東横堀川の東岸本町の橋詰町にあり。明治八年の開館にして、敷地五千數百坪を有す。表門は西方東横堀川に臨み、裏門は松屋町通にあり。表門を入れば莊麗なる美術館あり。張天井には名畫工が丹青を凝したる古模樣畫の描寫を見るべく、陳列品には、市内富豪の珍藏せる什器を初め、數多の美術品等を展列し、時ありては書畫、工藝品の展覽會を催すを常とす。美術館の東北方に大廣間あり。能舞臺あり。庭前には閑寂にして鬱蒼たる林泉あり。六室の賣店を廻りて、庭園に出づれば動物園あり。

淀屋橋筋 區の北縁淀川の一、支、土佐堀川に架せる淀屋橋より、南に通ずる街路を

いふ。其所より平野町筋に至るまでは、雑質の大賈軒を並ねて甚だ繁盛なり。

**心齋橋筋** 淀屋橋筋の東にして、大阪市街南北の軸とも稱すべき、市中最も繁華を極む。幅狭き街路の兩側には、各種の商店相櫛比し、人車絡繹として織るか如く、其光景恰も東京に於ける銀座、日本橋、人形町通に似たり。

**平野町通** は毎月一六の夜店を以て有名なるの地にして、其長さは東横堀の平野橋より西横堀の京町橋に達し、此街路に大阪電話交換局あり。本町通は其南に當りて、街路や、廣濶に、第三銀行支店、東區役所、東警察署あり。

**御靈神社** 平野町五丁目御靈筋にあり。天正年間の創建にして、中央天照太神、左八幡宮、右鎌倉権五郎の靈を祀れり。社域千二百餘坪を有し、社殿は東面し、右に神輿庫、左に神樂殿あり。毎年七月十七日夏祭あり、昔は船渡御なりしも今は陸上の渡御とす。境内に人形淨瑠璃を以て有名なる文樂座を初め、其他興行の寄席多し。蓋し市内有数の遊園地たり。表門の前に五二會勸商場あり。

**東本願寺別院** 津村別院又は北御堂と稱し、津村本町にあり。一道の石階直に東面せる表門に達し、正面に本堂あり。本堂、對面所の構造の壯宏なる市内第一と稱せり。境内なほ三祖堂、鐘樓、鼓樓等あり。又征清役の紀念として建てられたる尖塔ありて、高く天に沖せり。

**西本願寺別院** 東本願寺の南三町餘、北久太郎町四丁目にあり。南御堂又は難波御堂ともいふ。東本願寺十二代門主教如上人の創建にして、慶長の末今の地に移せり。本派の別院と相對して、共に此方面の偉觀をなせり。牆壁左右より起れる東方の四足門を入れば、正面に本堂あり。對面所、鼓樓等皆本派別院と相似たり。境内頗る清洒にして地一塵を留めず。

**座摩神社** 西本願寺別院の背後、船場久太郎町にある府社。生井神、榮井神、津長井神、阿須波神、波比岐神の五座を祀りし延喜式内の神社にして、昔、神武天皇大和高見の山中に祀らせ給ひし事などあるより、皇室との由縁殊に深し。社殿は近年改築



し、甚だ壯麗を極めたり。また此社は大阪市中の鎮守神として名高く、東京に於ける神田明神に相似せり。毎年七月二十二日例祭を行ふ。

難波神社 は博勞町四丁目にあり。本宮は仁徳天皇を祈り、他に素盞鳴命、食稻魂命を合祀せり。別に稻荷の攝社ありて、博勞稻荷の名高く、流行神として、賽者陸續絶ゆるの時なし。社傳によれば反正天皇元年勅して大江の阪平野郷に草創し、後天正年間今の地に徙せりといふ。

生國魂神社 西高津の北にある官幣大社にして、市中第一の大社たり。延喜式内の舊社にして、創建は天武天皇紀元前戊午の歲九月、難波の高津丘即ち今の城址内に勸請せしものと傳ふれども、歲月遼遠にして其眞偽を知る可らず。社は一帯の高地にありて、其廣さ七千二百餘坪を有し、壯麗なる大華表は生玉町の道衢に高く聳ゆ。正面に拜殿、本殿あり。本殿の構造は檜皮葺八ツ棟造にして、素楹古雅、賽客をして自ら襟を正さしむ、他に、北御門、乾門、南御門祭神は生國魂、足國魂の二座を祀り、六



生 國 魂 神 社

月二十八日御稜の祭を行ひ、七月九日の夏祭に次ぎ、九月九日例祭を舉行す。夏祭の渡御は市中屈指の壯觀たり。近時境内に櫻樹を植ゑ、門前の池水また蓮花多し。社内に眺望臺あり遠く市の萬葉と茅渚の海を隔て、淡路の青螺を望み、眺曠頗る廣濶なり。

北向八幡宮 生國魂神社の右側にあり。慶長年中の創建にして、譽田別尊を祀れり。社名の起原は大阪城の鎮護神として北向せるより出づ。

高津宮址 仁徳帝が即位の折、宮殿を造營あり

攝津

年十一月三日大阪朝日新聞社の發議により、有志相謀りて、小松元帥宮の御題筆を得此碑を建立し、以て高津宮の遺址を後代に傳へたものなり。

**味原の池** 高津宮址碑の附近にあり。廣袤二町步餘の池水にして、傳説に言ふ、太古大己貴命の御子、味耜高彥根命、此附近に降臨ありしに因み、傍近一帶を上古味原郷と呼べりしと。或はいふ、比賣古曾神此所に天降りまし、命が御影池とて其名を存しぬと。

**桃山** 或は桃谷と言ふ。小橋寺町の南にありて、桃園多く、花時は遊客群集し、頗る雑沓を極む。また此西方に梅園あり。一を梅屋敷と言ひ、一を新屋敷といふ。

**産湯稻荷** 味原池の南方法藏山の北丘に、清泉あり、産湯の清水と言ふ。大小橋命の産湯に用ゐさせられしと傳へ、大阪六清水の一なり。産湯稻荷は法藏山の丘山にあり。豊受大神を祀り、丘側狐穴夥しきを以て、俗に狐谷とも稱せり。社頭眺望頗る佳なり。

**眞田山** 玉造驛の西方二町の丘陵を眞田山又は宰相山と言ふ。大阪の役眞田幸村が出城を築きて、東軍を拒きたるより眞田山と言ひ、宰相山は加賀宰相が陣屋跡なりしより、かく呼ぶ。丘上に、嬪山神社、三桂神社あり。嬪山神社は反正天皇の御宇の創建にして、仁徳天皇を祀り、三桂神社は武川伊賀守なるもの、陸奥國青麻三光宮の分靈を勧請したるものなりといふ。三桂神社は俗に三光宮とも稱す。

**玉造** と呼べる地域は東區の東部にありて、大阪城址の南に連れり。地には邸宅別墅多く、城東線の鐵路は其東端を横斷して、其中央に玉造驛を置けり。新玉造町に騎兵營あり。清水谷に高等女學校あり。

**森の宮** 一に鵠の森といへり。玉造驛の北方五町許りに一古祠あり。これ、即ち森の宮にして、推古天皇の六年四月、鵠二喉を難波の森に養はしめ給ひし歴史を存する所とす。また、今の四天王寺はもと此所にありしといふ。社の境内、本殿、幣殿、拜殿等あり、春秋の候散策によく、殊に秋の月勝れたり。



大阪府廳 市民俗に政府と稱す。江の子島にある洋風の大建築にして、明治七年の創建にかゝはる。附近に、警察本部、府會議事堂、市役所等あり。

舊外國人居留地 江の子島の西端、木津川橋を渡れば、川口町と稱する一區劃あり。數多の洋館整然として相並び、巨松疎々たるの邊、自ら一種の特色を有す。これ即ち舊外國人居留地にして、幕府時代には北方に川口奉行所あり。南に一橋、清水の諸邸宅ありし地なり。明治の初年に於ては、此附近の建築は頗る人目を惹きたれど、今は大厦巨屋至る所に巍然たるを以て、其宏壯を説くものなし。蓋し、清韓内外國貿易の振はざるが爲めなるべし。

靱町 は北京町堀、南阿波堀より、東は西横堀に至る一區を稱し、其盡頭は永代濱をなして細く阿波堀に通じ、京町堀と海部堀と相合するの所、地形三角狀を爲して、之を劔先と稱し、肥料を始め、鹽魚、乾魚等を販賣せる商賈軒をつらね、賣買頗る盛なり。永代濱には住吉神を祀れる小祠あり。例年七月三十一日には、乾魚の類を以て

造り物をしつらべ、以て其神を祀る。見物人多く群集す。靱町より更に阿波堀を隔て、阿波座町あり、また繁華の區なり。

瀬戸物町 は新町橋西詰より北方京町堀西詰に至る西横堀川一帯の地にして、陶磁器を販賣する商賈多し。附近、信濃橋詰に陶器神社あり。例年七月二十三、二十四兩日祭典あり、陶器を集めて種々の造り物をなし、以て同神を祭る。靱町の住吉祭と共に、一阪名物の隨一に數へらる。尙ほ長堀、堀江附近に至れば、林木商甚だ多く、宛然東京に於ける深川木場の如き光景を呈せり。

廣教寺 俗に願教寺ともいふ。薩摩堀北の町にあり。今、眞宗を奉じて、西本願寺派に屬せり。徳川家光の時、石山城南より此地に徙されしなりといふ。

和光寺 堀江下通四丁目にあり。淨土宗にして、淨蓮上人作一尺五寸の金銅阿彌陀佛を本尊とす。本堂の北に阿彌陀池あり、俗に欽明天皇の御宇、物部守屋が佛像を投棄せし跡なりと傳へ、推古天皇の御宇、本田善光が其像を拾ひ上げし難波堀江の一部

なりと稱す。池には架するに小橋を以てし、中央に放光閣と稱する寶塔を建つ。其他境内には、觀音堂、普門堂、愛染堂、藥師堂、地藏堂等あり。寺域清淨、諸堂宇壯麗、賽者常に群集して、殊に涅槃、灌佛の兩會には頗る雜還を極むといへり。

土佐稻荷 和光寺の西三町を隔て、西長堀なる舊土佐藩の藏屋敷内にあり。倉稻魂命を祀る。境内廣濶にして、老松櫻樹多く、本殿、幣殿、拜殿、繪馬舎、神庫、社務所、神樂殿及び若宮、石宮、武根社等の末社あり。殊に石宮は海上守護の神なりとて、船員舟子の來賽するもの多く、其繁華北區の天滿宮に次ぐ。

木津川 の沿岸には、無數の帆船林立し、和船の出入織るが如く、従つて回漕業者多く、宛然、東京に於ける越中島、小網町沿岸に相似たり。

天滿天神施所 千代崎橋の西、松島町にあり。天滿宮の神與此所に船渡御あるなり。

竹林寺 尻無川の西岸梅本町にあり。淨土宗にして、教與上人の開基、寛永年中の

創建なり。本尊は惠心僧都作阿彌陀佛像にして、香西哲雲の納むる所たり。尙ほ境内に哲雲遺愛の香の梅あり。

茨住吉神社 九條町にあり。祭神は底筒男、中筒男、表筒男、神功皇后の四座にして、寛永元年香西哲雲九條島開發の際勸請せしものなり。社域に本殿、幣殿、拜殿、神樂

所、繪馬所及び九座の末社あり。例祭を七月三十日と十月十五日の兩日とす。大阪紡績會社 は三軒屋町にあり。本邦有數の大工場にして、烟突の烟日夜絶えず。

産額また巨大なり。社の南に大なる船圍場あり、船舶陸續として來り泊す。松島遊廓 九條の東、木津、尻無の二川によりて挾まる。仲の町、高砂町等三層四層の大厦相並びて華表を競へり。仲の町は櫻樹を中央に植ゑ、夜間は花間に電燈を點じて、不夜城を現出せり。近傍劇場、寄席等甚だ多く、八千代座また廓内にあり。

尻無川 松島の西を流る。兩岸の景色よく、堤上植樹多し。甚兵衛の小家は鱒釣りによく、から汁を名物とせり。

●●●●● 九條町 安治川と尻無川との中間に位せる地積は、近年築港と共に開かれたるもの、其東端九條町より港頭まで一里に過ぐ。九條町一帯の地は、淀川三角洲の最も近く發達したるものにして、寛永年間西哲雲の填築にかゝれり。

●●●●● 九島院 は其當時、新拓地の安全、五穀成就を祈らんが爲め、哲雲の建立せしものにして、今、本田町通二丁目にあり。寺域甚だ廣からざれども、境内清楚なり。本尊を聖觀音とし、禪宗黃檗派に屬せり。もと、開祖は龍溪和尚にして、安治川水燈會は此和尚の時より始めり。

●●●●● 築港大道路 新に開きし築港大道路は、九條橋花園橋畔より、坦々として西に通じ電車は港頭に向ひて遠く駛る。此間の停留場は、市岡、田中、八幡屋にして、港頭に近く右に天保山の舊砲臺を望み、前に數個の倉庫を隔て、長大なる棧橋の海中に突出したるを認むべし。

●●●●● 築港 は内港外港の二に分ち、外港は南北突堤に由りて圍繞せられ、中に棧橋及

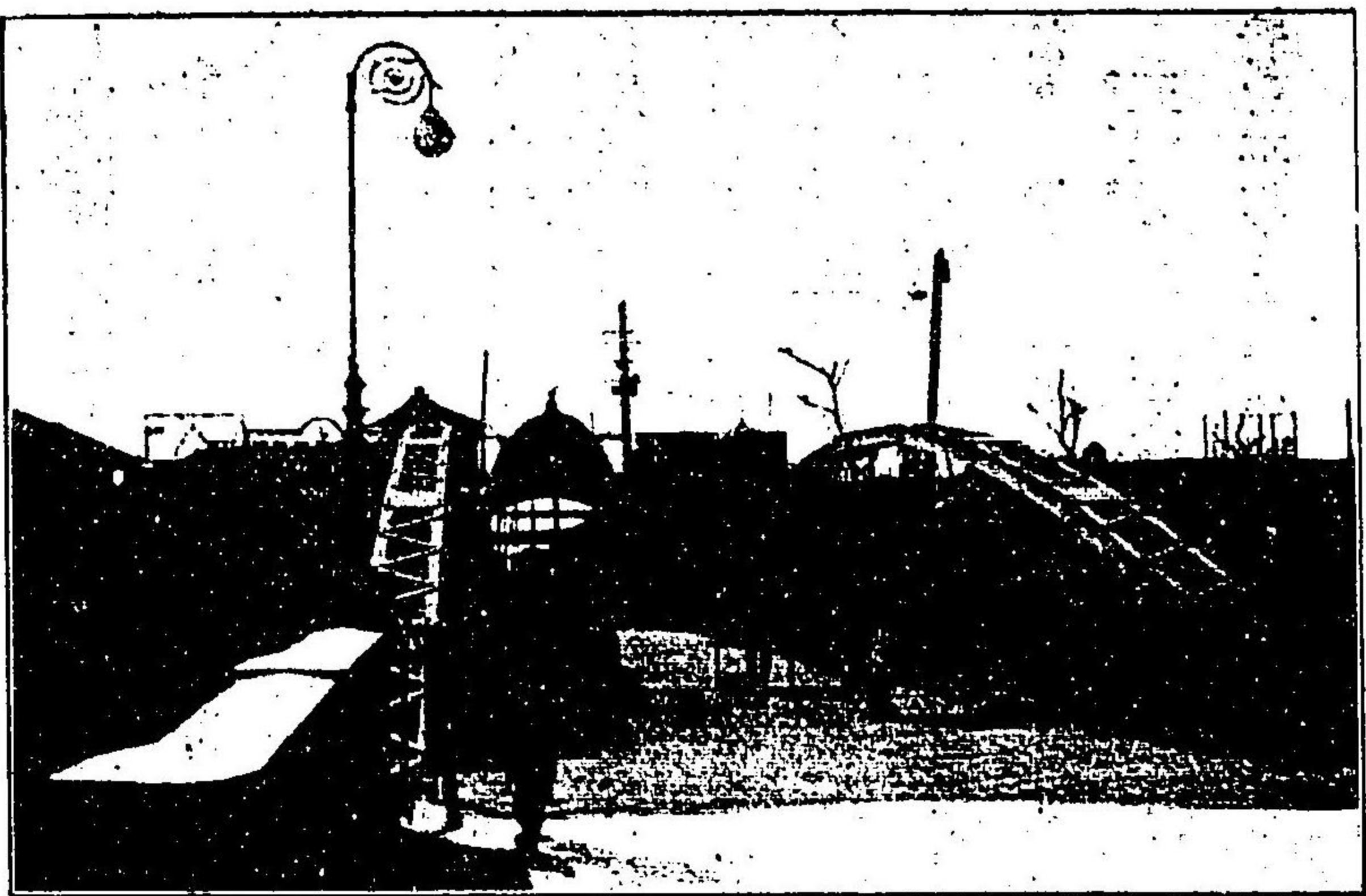
び數個の船渠を包む。安治川口の北岸を基點とせる北突堤と尻無河口燈臺附近を基點とせる南突堤とは西に向ひて海中に突出すること千四百餘間、其極端は針形を成して相迫り、港口を成せり。港口の幅百間にして、一道の船路は夫れと同じ幅を爲して港岸に達せり。棧橋は長さ二百五十間水深優に一萬噸以上の汽船を横附にすることを得べしといふ。こゝにありて望めば、大阪灣は深碧又深碧、右に和泉紀伊の海岸の弓弦を張りたるごときを見、前に四國の青螺の淡々として將さに無からんとする眺め、左に六甲摩耶の山翠を指し、氣象瀾大、精神自づから爽かなるを覺えざるものはなかるべし。蓋し、大阪市中第一の風光と稱して可なり。

●●●●● 天保山 港頭を去りて東北に向へば、幾程もなく天保山に達すべし。天保山は天保二年安治川を浚深し其土砂を此所に積上げ、以て船舶出入の目標にせし所なり。されど、今は築港大突堤に圍まれて、新埋立地に引直されんとす。山はまた舊砲臺址のある所にして、今、燈臺を置かる。著名なる添標は此沖合にあり。大阪の一名物に數へ

られ、市の徽章は其形によれり。山の傍らに築港事務所あり。天保町は蕭然たる地區なりしも、現在は頗る活氣を帯び、家屋また櫛比せり。これより安治川に沿へる地には、一條の街路通じ、人家軒を並べたるを見る。蓋し安治川水運の餘澤を蒙れるものか。

●●●●●●  
安治川 は昔川村瑞賢幕命によりて掘りし川なり。瑞賢名を安治と稱せしより、取つて以て川の名とせり。

○南區 市の南部に位し北は東區西は西區、東南は東成郡に接せり。地勢平坦なれども、天王寺の附近小丘相連り、茶臼山に至りて盡く。河渠は東横堀長く東區より來り、區中最も繁華なる島の内と稱する地區の東を流れて、上大和橋に至り、これより西に屈曲して、道頓堀となる。道頓堀は慶長中安井道頓の開掘せしもの、其下流は大黒橋に至りて西區に入れり。これに平行して其北に長堀あり。かの著名なる心齋橋は實に此に架せり。島の内は東區に接し、大阪市中最も中心なる船場の諸市街と相連



橋 齋 心

繋せるを以て、従つて市街甚だ繁華に、有名なる心齋橋筋は、基點なる心齋橋より長く南北に通せるを見る。

●●●●●●  
心齋橋 は明治六年の架設にかゝれる小鐵橋にして、此南北一條の街衢は市街甚だ狹隘なるも、各種の商店悉く備り、美術品、裝飾品其他各種の工藝品より日用の雜貨に至るまで、一として辨せざるはなく、殊に近年は諸舖互に綺麗を競ひ、美觀を専らにし、一に顧客の眼を惹くに汲々たるを以て、繁華更に一層を加へたるの思あり。殊に橋南は、肩摩穀擊、般販雜沓を極めたり。蓋

し大阪市の銀座とも言ふべき所か。

●●●●● 長堀橋筋 は心齋橋筋に隣り、東區堺筋より通せる廣濶なる街路にして、其繁華心齋橋筋に次ぐ。

●●●●● 四ツ橋 心齋橋の西、西區に接せる所にあり。即ち、長堀川と西横堀川と相交りて、十字形をなせるの邊、四箇の橋梁を架し、其狀恰も井字を爲せるを言ふ。東なるを炭屋橋、西なるを吉野屋橋と爲し、南なるを下繫橋、北なるを上繫橋といふ。他の奇なしと雖も、劃然井字を爲せるを以て、奇觀として著はる。觀月、納涼兩ながら宜く、短舟に棹すもまた一興たらん。

●●●●● 三津八幡宮 心齋橋の南四町にあり。應神天皇を祀り、郷社にして、島の内の氏神たり。境内本殿、幣殿、拜殿の他、數座の末社あり。

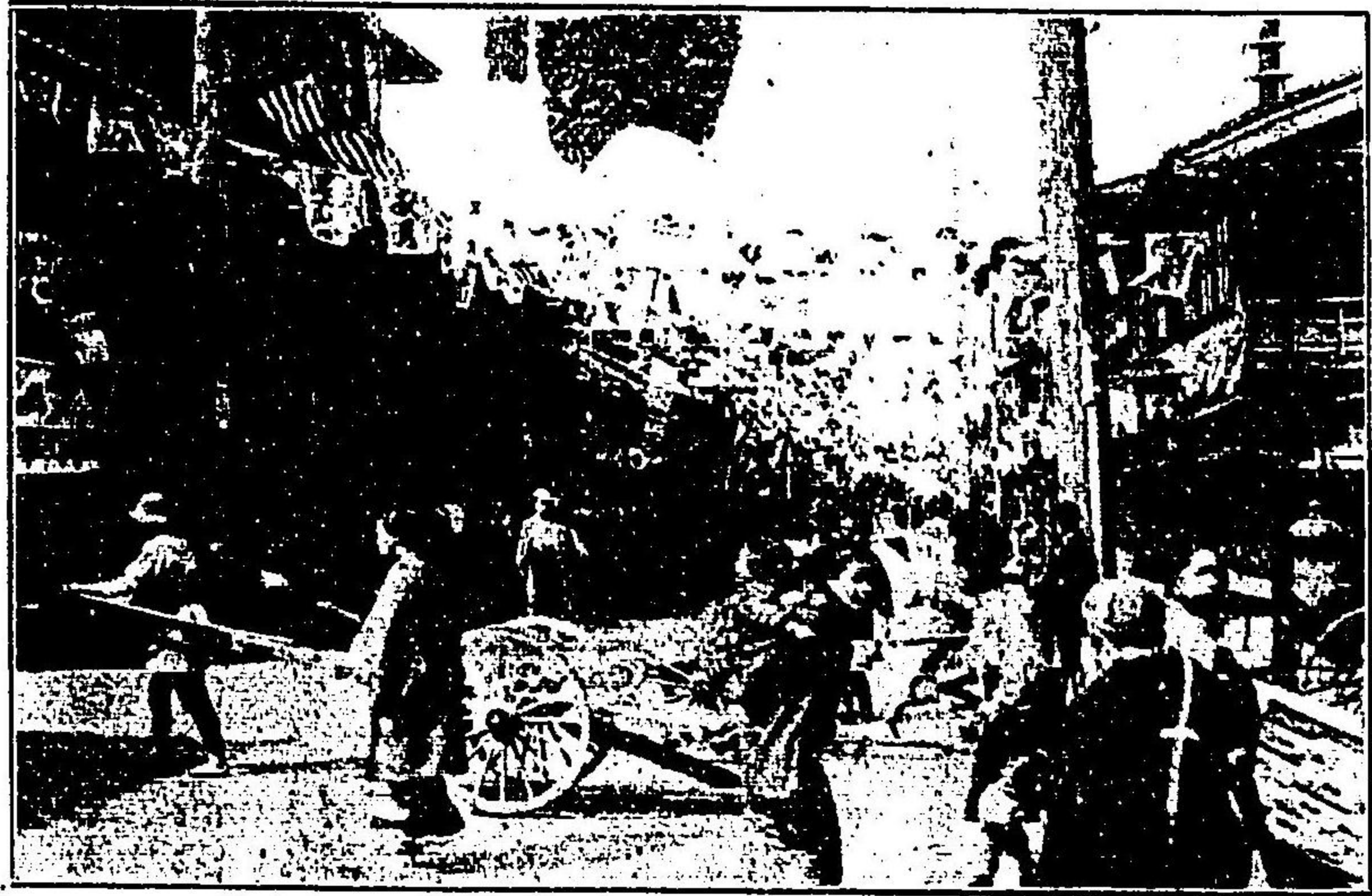
●●●●● 三津寺 三津八幡宮の東南二町にあり。眞言仁和寺の末寺にして、行基作十一面觀音を本尊とし、鐘樓、地藏堂あり。左邊樟の大樹は古來の名物なりしが、今は焼失し、

現今のは後河内の深山より移植せしものなり。

●●●●● 高津神社 東横堀以東の地は、高津と稱し、其一部は東區に屬せり。高津神社は高津町一番地にあり。府社にして、仁徳、仲哀、應神の三帝及び神功皇后、葦姫皇后並に履仲天皇の六坐を鎮せり。勸請建設の年月詳かならざれども、貞觀八年を以て、朝廷奉幣使を遣はしたるは國史に明かなり。今の地に遷せしは、豊臣秀吉が大阪に築城せし際にして、天正十一年なりといふ。本殿は南向し華表の中に梅の橋あり、其南方を梅の辻といふ。共に難波津の梅に基由せるものなるべし。社頭に高臺の頌碑あり。社殿は莊嚴にして、境内に望烟亭あり、舞臺あり。前者は仁徳天皇高台の紀念建造物にして、明治三十二年九月同天皇千五百年大祭に際して建造せるもの、後者は本社西方にありて、頗る眺望に富み、全市の光景を双眸に收め得るは勿論、遠くは武庫、六甲の諸山を雲霞縹渺の間に望むを得べし。

●●●●● 道頓堀 とは道頓堀川の南岸十餘町の總稱なれども、西は戎橋、東は日本橋までの





間を言へるもの、如し。市内屈指の繁華地にして、北岸は所謂宗左衛門の狹斜地、艶を含める絃歌の音は夜絶えず。脂粉の香は到る所に溢る。ことに夜に至れば、樓々の燈火溝水に落ちて、絃音歌聲、坐ろに遊子の思を惹くに堪へたり。橋を渡れば、道の南側に有名なる浪花座、中座、朝日座、辨天座の諸劇場相並び、北側には昔時いろは茶屋の名を止めたる芝居茶屋相接し、まことに一種特色ある一區を成せり。

千日前 は此細徑を南に入りたる所あり。紅白の幟幾十條となく風に翻りて、

雜然たる鳴物の音耳に喧し。これ皆種々の興行肆なり。即ち大阪の淺草奥山と思へば間違なきなるべし。千日前の東に日本橋筋あり。これ、また南區に於ける繁華の地區たり。

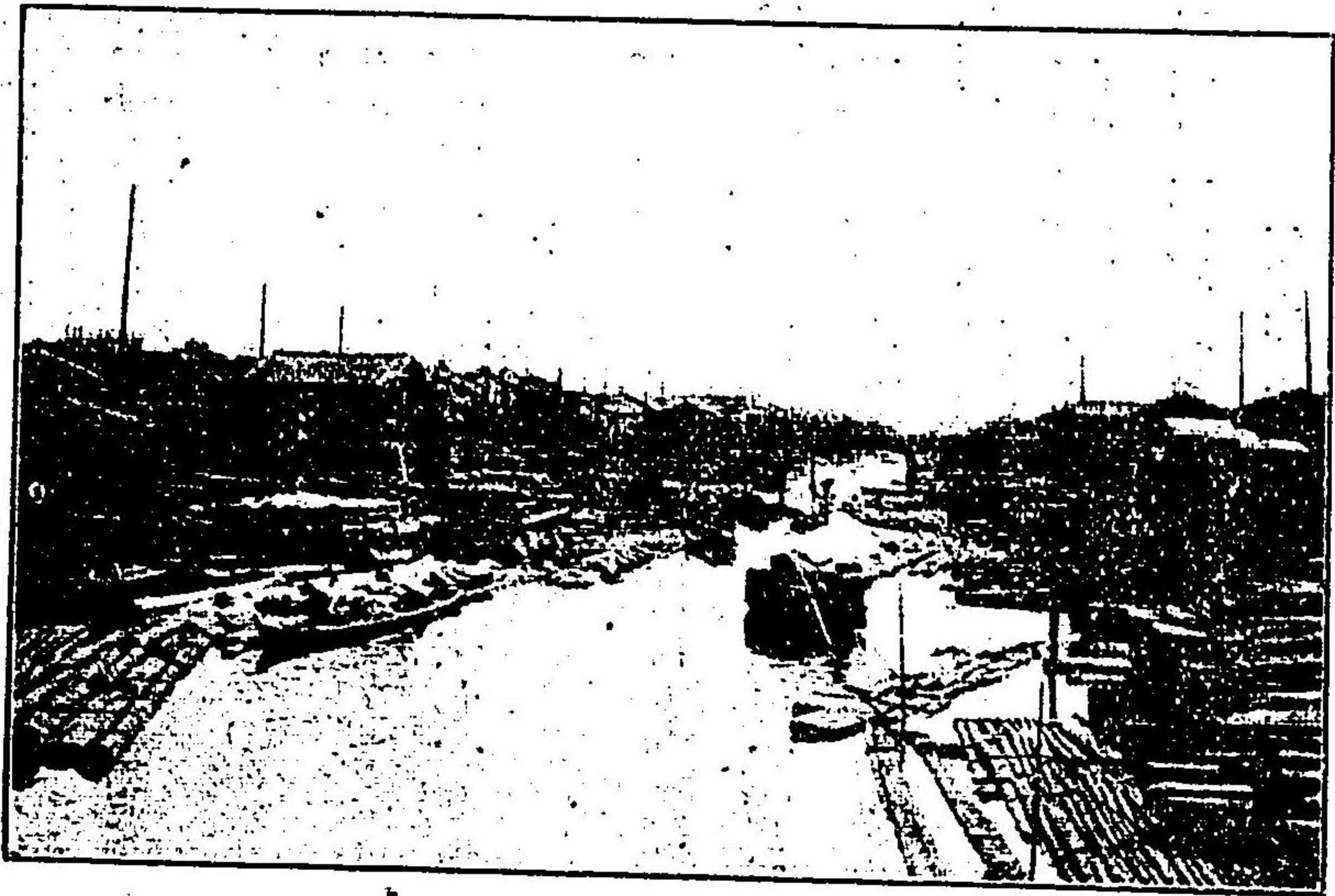
安井神社 は日本橋筋の北端にあり。安井道頓の靈を祀れり。

難波 は道頓堀の西南に位し、新地の南少許に、南海鐵道の起端驛なる難波停車場あり。其北に烟草專賣局あり。

八坂神社 元町五丁目にあり。素盞鳴命を祀り、此地方の氏神にして、毎年一月十日の祭禮には、氏子群集して大綱を引合ふ。之を難波の綱曳きといへり。

廣田神社 戎橋通南十餘町にあり。本社には天照太神を祀り、他に小祇園社、稻荷社等あり。社域廣く廣田の杜と呼べり。

今宮神社 世俗今宮の戎といふ。廣田神社の南一町餘にあり。祭神は天照太神、姪子尊、大己貴命、素盞鳴命、月讀尊の五坐にして、毎年十一月十日は十日戎と稱して、



津 木

有名なる大祭あり。賽人雑闘、境内立錐の地なきに至る。

赤手拭稻荷社 難波稻荷町にあり。

難波には、南海鐵道の難波停車場、湊町には關西線の湊町停車場、沙見橋畔には高野線の沙見橋停車場あり。三停車場相並びて、市の南方交通路の門戸をなせり。

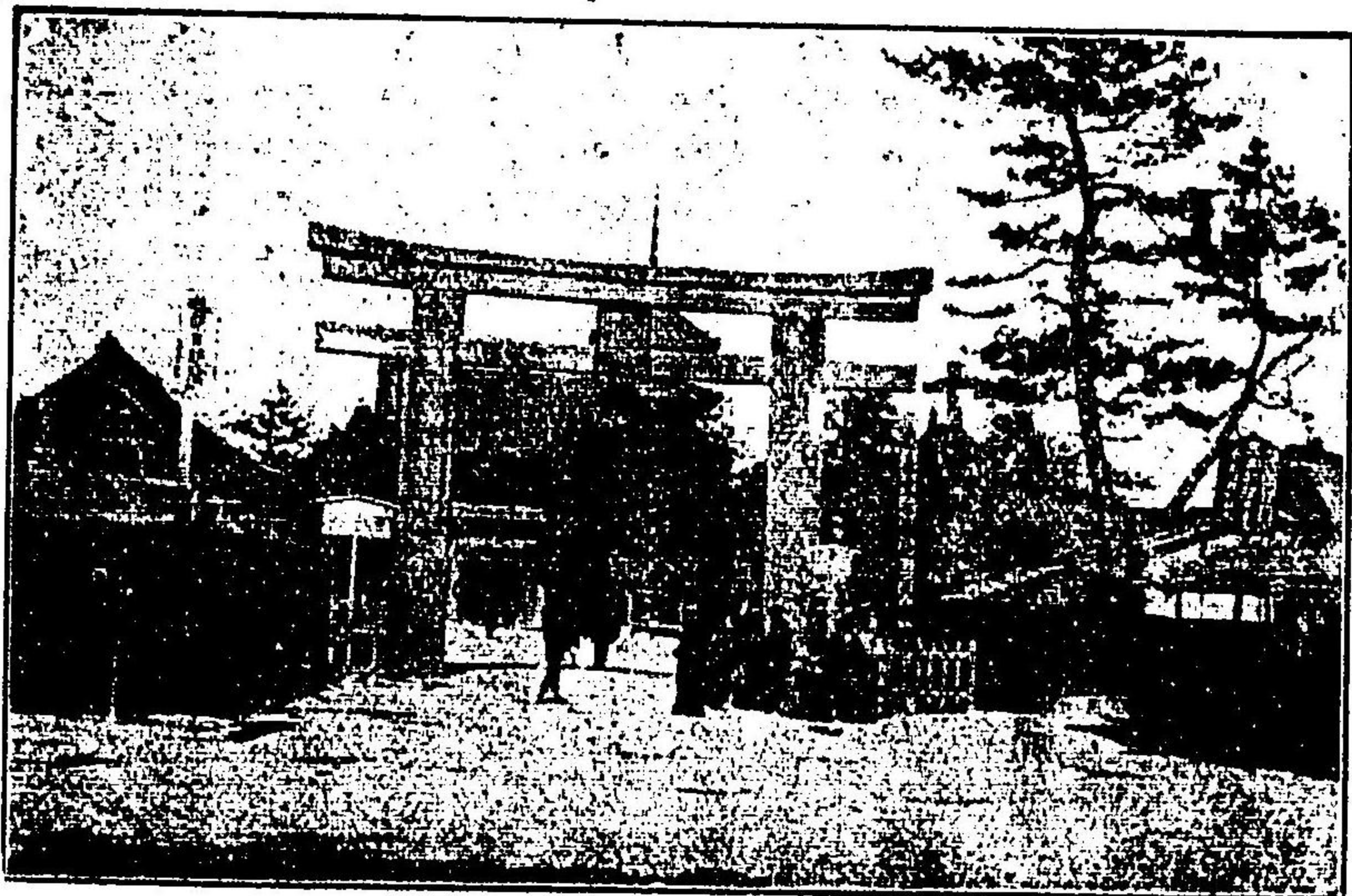
木津 上の地より木津川の一支流を隔て木津と稱する地あり。其西濱には皮革を業とせるもの多く、概して貧民窟なり。また小規模の工場多く、トタン葺の屋根、無数の小烟突、煤烟簇々として低く迷ふ。

今宮 に至れば、第五回博覽會場の地あり。廣大なる地域は市の公園として保存せられんとす。

茶白山 是其西に蟠まり、老松嵯峨として繞らすに濠池を以てせり。往古荒陵と稱せしは此地なるべし。慶長年中豊臣秀頼の大阪の城に居るや、此所に陣所を設け、元和元年真田幸村東軍と此地に戦ひて死す。茶白山の激戦即ちこれなり。天王寺驛より五町にして達すべし。

邦福寺 俗に雲水と稱し、禪寺なり。寺内の庭園甚だ幽趣に富むを以て、花晨月夕來り遊ぶもの多し。境内遊息亭の普茶料理は著名なるものにして、また風味に富めり。一心寺 茶白山の西北、四天王寺石華表より西方三町、逢坂下の町にあり。淨土宗を奉じ、もと天王寺の別所たりき。文治元年慈鎮和尚の開基創建、淨土宗祖二十五箇所舊跡の一なり。慶長中叅州の僧存岸之を再興し、一心寺と號せり。大阪冬の役に家康公此所に陣し、戦後台命によりて堂宇を修築せり。表門は大阪玉造門を移したるも





以て鳴れり。其前方菩提寺境内にも又絲櫻あり。

四天王寺は天王寺村大字天王寺にあり。荒陵山難波寺と號す。有名なる天台宗の古刹にして、今を距る一千三百年の昔用明天皇の二年、聖德太子始めて東成郡玉造の岸に草創し、後推古天皇の元年、同地を距る南三十餘町、荒陵(今茶臼山)の東に移す。即ち今の地なり。堂塔は創建の後數度の兵燹災禍に罹り、近世に及び享和元年雷火に逢ひて、金堂大塔以下四十餘宇悉皆焼亡す。文化九年大阪白銀町の紙屑商淡路屋太郎左

左重興の發願にて勸募工成り舊觀に復す。境内の廣さ始め東西八町南北六町餘と云へども、今は僅に二萬六千歩のみ。南を正門とし西の入口に石の華表あり。夫より一町にして南門裡に樓門あり。之を入れれば正面に五層塔ありて屹然雲表に聳ゆ。方二丈三尺高十丈七尺。北に金堂あり桁行十間、梁間八間。本尊は如意觀音にして脇壇に彌勒佛、四天王、波羅門等の像を安置し、又佛舍利數粒を藏む。北に講堂あり。古へ太子の經文を講せし處なりとて講法堂とも云へり。堂の北に古梵鐘あり、無常院の鐘と稱す。又講堂と六時堂との間に一池あり、池の上に舞臺を架す、長六間幅四間餘、昔聖靈會の時、俗人此所にて舞樂を演せりと、今も猶ほ古式を存し他の模範となると云ふ。池の北なる六時堂は、傳教大師の草創にして、比叡山根本中堂を模せしもの。東南に太子堂あり、聖德太子十六歳の尊像を安置し、入口を猫門と云ふ。此他三昧堂、龜井の水、轉輪堂等皆境内にありて喪人常に群集し、中にも春秋二期の彼岸會、八月の千日詣等には頗る雜沓を極む、近年西北の域に數百株の櫻樹幾十叢の胡枝花を栽え、反別

九町餘の地を限りて公園地とす。花時園内に割烹店、茶亭等を設け、名物の田樂を講ぐ者多しと云ふ。本寺は地形の要害、兵家必争の點にあたるを以て戦亂の災亦數々なりしが、其草創甚だ古きを以て、貴重なる古寶遺物に乏しからず。中に聖德太子筆十七條憲法、洪慶及運渡作十二神將等あり。又、近時聖德太子千三百年御遠忌紀念として、世界無比の巨鐘を鑄造せり。

合邦の辻 相坂と下寺町と相合し、丁字形をなせる所を合邦の辻といふ。もと此所に天王寺の學校ありしより、學校の辻といひしが、後轉訛して合邦の辻となれりといふ。路傍に焔魔堂あり。

鳳林寺 天王寺々町にあり。天正年間北條氏房女の建つる所にして禪宗を奉じ、釋迦如來を本尊とせり。聖德太子作聖觀音像及び弘法大師の眞經、兆殿司筆十六羅漢像あり。

月江寺 淨土宗の尼寺にして、光明山林照院と號せり。永創年間の開創にて、僧

惠心作阿彌陀佛を本尊とせり。寺の東に蟲谷あり、昔天王寺の城址にして、佐久間信盛の據りし所、秋蟲に名あり。

吉祥寺 月江寺の東にあり。山門には淺野内匠頭筆「萬松山」の扁額を掲げ、寺内に四十七義士の木像を置けり。寺の附近に超願寺あり聖德太子の開創にして、境内に竹本義大夫の墓あり。

尙ほ天王寺附近に於て、天王寺驛は阿部野街道筋にあり。城東線、湊町線の交叉する所となす。驛の東北、南河堀町に、大阪府師範學校あり。勝山通は三條を爲して、長く東北に通じ、其北の突角に大阪府女子師範學校あり。又其西に天王寺中學校あり。

桃山 城東線の桃山停車場は鳥ヶ辻町に位し、其北に桃山避病院あり。此附近、概して清酒幽趣に富み、別墅多し。南區の南部、鐵道線路に添へるの地は新開町多く、其光景宛として、東京に於ける田端、千住間の地に髣髴たり。

○接續地 大阪市の四圍、記すべきこと少なからず。今南より之を記せんに、先づ

高野線の勝間停車場を経て、天下茶屋に至れば、南海鐵道線の停車場あり。

天下茶屋 と稱するものは二軒あり。一は天下茶屋驛の近傍にありて、明治十年今上天皇が御巡獵の際行在所に宛てられしもの、他は勝間停車場に近く、秀吉の茶室なりと稱する瀟洒なる小亭を有し、傍に惠水と稱する古井あり。また此附近に紹鷗森なるものあり。茶人紹鷗の幽栖せし所と稱す。なほ天下茶屋遊園には千成樓、瓢々亭、ひさご屋等の料理店あり。

阿部野神社 天下茶屋より田間の路を傳へば、直に阿部野に達すべし。阿部野は北畠顯家が奥羽の軍を率ひて、來りて足利氏の軍と戦ひ、敗れて戦死したる古戦場にして、左方丘阜の上に清洒なる一社の建てるを見る。これ別格官幣社阿部野神社なり。明治十五年の創建にして、北畠顯家及び其父親房を合祀せり。住吉神社ははや此所を距る事遠からず。

舍利寺 桃山驛より六町を隔て、四天王寺の東方十町許り、東成郡舍利寺村にあり。

聖德太子の御墓にして、林権和尙之を中興し、冷黄葉奈に屬せり。寺藏頗る廣く、漆門の左右、白雲の牆壁をめぐらし、前は直ちに田懸に接す。書院の冲庭、和泉式部の腰掛松と稱するものあり。其堂内に胎内くありあり。門前に太子御影の松あり。

紅葉寺 四天王寺東門の北半町にあり。善法寺といふ。寺藏紅葉の美を以て名高し。毘沙門池に臨みて、小亭を設け、遊客に備ふ。

清壽院 は紅葉寺の南にあり。明和の頃支那僧大成和尙之を中興し、本堂に關帝の像を安んず。故を以て土俗或は南京寺とも呼ぶ。關帝廟は此附近にあり。龜林寺と稱し、延寶五年、心越禪師の開基にして、禪師が明より持來りし關羽の像を本尊とせり。御勝山 は一名關山と稱し、今の生野村百濟野の地なり。大坂冬の役に、徳川秀忠が據りて以て豊臣氏と戦ひしところ、今、其址に御勝山農學校あり。

鶴橋 御勝山より北すること數町にして、平野川あり。中河内郡より來り透蛇として此間を過ぐ。途に石橋を架せり、鶴橋と云ふ。蓋し此附近は所謂古の猪飼野にして

日本書紀に見えたる猪津の小橋は即ちこれなりといふ。

阿遲速雄神社 榎本村の南方にある式内の古社なり。

毛馬の閘門 毛馬の地に於ては、新たに開鑿せし新淀川の水路、一直線に北東より

西南に流れ、其地點より、舊淀川の大坂市に岐るゝを認むるなるべし。而して其分岐

點の工事は、頗る大規模にして、閘門、洗堰の工事の宏壯なる、思はず人をして刮目

せしむ。今や、此工事竣功し、大坂市は水害を被ることなく、減水増水更に意を勞す

べきものなきに至れり。

新淀川 は長柄より海口に至るまで、其開鑿一里餘幅員三百間、乃至四百間を有し、

低水量常に八十間を保つ。且つ旅客は其大河を跨いで、二條の大鐵橋の宛如虹霓の如

くなるを認むるなるべし。これ、鐵道線路に當るものなり。

源光寺 豊崎町字南濱にあり。淨土宗にして、天平年間僧行基の開創なり。本尊天

筆阿彌陀如來の畫像は、建武年中法明上人加古の念佛堂に至りて、其像を請受け本寺

に安置せしものなりといふ。境内に詠歌堂、子守勝手の祠等あり。僧行基は實に此寺

に於て三昧火坑を始めしなりとぞ。

長柄豊崎宮 の所在地に就ては、諸説紛々として明かに知り難けれど、今、豊崎町

大字本庄に一祠あり。稱して以て其宮址となせり。

淀川、中津川、神崎川交叉の地は、有史時代に於ける三角洲の發達によりて填築せられたるものにして、仁徳帝

の頃にありては、全く海中にありたる事疑なし。

傳法村 附近に於ては小工場群をなし、烟突林立常に煤烟を吐けり。

崇禪寺 西成郡北中島村にあり。曹洞宗にして、亨隣和尚の開基、足利義教の菩提

所として、喜吉二年細川持賢の草創する所たり。寺域は松林竹叢を以て圍まれ、やゝ

幽邃の趣きあり。境内に義士の墓あり、昔和州郡山の藩士遠城重次、安藤光乗の兄弟、

敵生田傳八郎の爲めに此所にて返討に遇ひて死す。墓は即ち兩人の死屍を葬れる所に

して、寺に猶兄弟の長刀手裡劍、鎖帷子等を藏せりといふ。

●●●大願寺 は崇禎寺の東方約半里、新庄にあり。日蓮宗日慶上人の再興にして、閻浮檀金の釋迦如來を安置せり。境内に橋柱地藏堂あり。後一條院帝の御宇長柄の橋柱水底より揚りしを、天皇佛匠に命じて、地藏尊を彫刻せしめ、此地は橋本寺の舊趾なればとて新たに堂舎を營みて其像を安んず、即ち是なり。又寺域に鼠突不動尊あり。

●●●長樂寺 神津字三津屋にあり。法道上人の開基にして、慶長中僧有俊之を再興せり。眞言宗に屬し、黄金藥師佛を本尊とせり。境内に大師堂あり、本尊弘法大師像は高野清淨院の像と同作にして、世に二十日大師と稱す。尙ほ三津屋には小楠公の遺跡たる三津屋城址あり。

●●●住吉神社 大阪市の南方天下茶屋より更に南に向へば、頃刻にして住吉驛に達す。住吉神社は近畿有数の古社にして、社格は官幣大社に屬し、構造は一種の標式を具へて、本邦古代建築の第一期に屬し、出雲大社、大鳥神社と共に著名なり。社は底筒男命、中筒男命、表筒男命、神功皇后の四座を祀り、今特別保護建造物なり。地は閑雅



住 清淨にして、老楠巨松盪々として、遠く紅塵を絶するを覺ゆ。特に海岸には青松白沙相連なり、茅渚の海の風光は眼前に展開せられて、轉た去るに忍びざるものあるに於いてをや。境内廣濶にして、其間に數百の石燈籠を散點し、ことに反橋と海岸の高燈籠とは最も著名なり。毎月卯の日例祭を行ひ、六月十四日には名高き御田植神祭あり。神社の前は、即ち住吉公園にして、蒼松影を成し、風景甚だ明媚に、酒樓茶舖の瀟洒なるものまた甚だ多し。蓋し大阪附近に於て最も遊覽に適したる地なるべし。



●●●●● 霰松原 住居神社の華居を出で左折して行くこと半町許りの地を霰松原の古跡とし古詠頗る多し。古へは一帶の松林なりしも、後僧安立之を開きて町とせり。此東十町墨江村大字遠里小野の内、大和川に接近せる所は遠里小野の舊趾なり。  
●●●●● 灘波屋の笠松 安立町字一丁目の東側灘波屋の庭中にあり。幹の高さ七尺枝葉の蔓たること凡そ十餘間四方、周回四十間に及ぶ。其形笠を伏せたるが如きを以て有名なり。

●●●●● 我孫子觀音 住吉驛より十八町にして達すべし。盛長法印の中興にして、本尊聖觀音は泉州水門の瀧より出現したりと稱せられ、參詣人多し。本堂の右に護摩堂あり。

●●●●● 楯原神社 式内の古社にして、今天滿宮と稱す。喜連村字西喜連にあり。大和川の下流は攝津、和泉の國境を貫きて、此所に一大鐵橋の虹霓の如く架せられたるを見る。

○伊丹池田地方 國の北部にして丹波に入るの街道に沿へり。豐能の地方にして、郡役所は池田町にあり。道路は阪鶴鐵道の線路と共に神崎川に沿うて北し、塚口、伊丹

の諸町を経て、池田町に至り、鐵路は町を距る二十餘町の處に同名の停車場を置きて、西向して有馬郡に入る。箕面公園は近畿屈指の山水として名高く、能勢の妙見は關西地方の流行佛として著名なり。池田町又一種の特徴を備へて、旅客の興を惹くこと少しとせず。

●●●●● 伊丹町 阪鶴線は尼ヶ崎を起點として、山陽幹線より岐れ口驛を過ぎて伊丹町に達す。縣道は中央に於て分れ、南方に向へるものは町の端に於て二條となり、一は大阪に四里餘、一は二里餘にして尼崎に至る。町は神戸を距る事七里二十一町、河邊郡に屬し、町は舊伊丹、北河原、天津、大鹿、千僧の六よりなる。市街整然として河邊郡役所、伊丹中學校等あり。人口六千に過ぎざる小都會なれとも、古來釀酒を以て名ある土地として、小西家を始めとして伊丹酒造株式會社等の大釀造多く、白雪、島鯛等の銘酒は世に名高し。従つて町は貨物の集散頻繁にして、富商軒を並べて盛大なり。伊丹驛は縣道を距る三町餘の東端にあり。

野宮祇園祠 は伊丹天王町にあり。古へ豊崎宮と稱し、又水野にあるを以て、猪水野神社ともいふ。素盞鳴尊を祀る。延喜四年山城醍醐の聖實尊師之を茲に勧請して一院を建て、善樂寺と號せしが、後久安六年源為朝、その荒廢せるを補ひて金剛院と改め、天正年間又豊臣秀頼によりて再興せられ、現在のものは貞享二年近衛基熙の建營せし處なりと傳ふ。

荒木城址 町の東方にあり。永祿年間荒木村重池田伊丹の諸軍を率ゐて、足利義昭を保護し、此處を居城とせしが、天正七年終に織田信長の陷る所となれり。地は停車場の丁度前面にある小丘にして、殘壘今僅かにその面影を止む。

昆陽寺 稻野村大字寺本にあり。境内廣く、本堂、開山堂、大日堂、觀音堂、主水堂、護摩堂等、内に龍在せり。天平五年行基僧正が所謂いなな笹原を開拓して草創したる處、古來の眞言に屬し、行基が作たる藥師佛を本尊とす。本堂の西北なる林の中に開山塔あり、行基僧正を埋む。寺の北凡五町許にして、昆陽の池あり、同じ人の開

鑿せし者にして、周圍約三十三町と呼び俗に大池と稱す。古へは伽藍の壯嚴現時のものに幾倍せしかども、天正の兵火に炎上し、今の堂宇は後代の再建にかゝるものなり。

墨染寺 伊丹町字寺町にあり、曹洞宗にして、本尊の釋迦佛は定朝の作、又同じ人の作に依る藥師は伏見墨染より遷したる者なるに依り、墨染藥師と稱す。寺内に荒木村重の塔、俳人鬼貫の墓、及荒木村重が藩城の時織田勢の爲めに殺戮せられたる城中女子等の女郎塚あり。

辻の碑 町の大字大膳の東にあり。銘に曰く、距東寺十里距關戸七里距須磨七里距天王七里距大小路七里とあれど、何人の何時の代に何が爲めに建てたるや、詳かに知るべからず。

久々知妙見堂 小田村大字久々知の廣濟寺に屬す。天徳元年富田滿仲の勧請にかゝる。堂前に矢交の石あり。又廣濟寺には稱世の戲曲家近松兼林の墓あり。

満願寺 油田驛の北方、多田村大字満願寺にあり。神龜元年下野國芳賀郡の人勝道



池田川對岸の伊丹町と共に、其名天下に聞えしが、今は灘八郷の地に其名聲を奪はれて、やゝ退歩の傾きあり。また此地は往昔吳服の里と稱して、吳織、漢織等の絹を織りし所なるを以て、其舊跡多く、町の南に吳織神社、北に漢織神社あり。唐船灣は唐船の着泊せし古跡にして、吳織神社の南方に染殿井あり。其他星御門の古跡、梅室姫室の舊跡等あり。織殿舊蹟は町の南方にあり。

有岡城址は池田町の東北にあり。池田信輝の據る所にして、太閤記、信長記等にしばしば攻伐の事記されたり。池田城址は五月山にあり。始め細川晴元之に據り、後永祿十一年池田光政此所に居たりき。此他原田城址は南豊島村大字原田にあり。福井城址は豊島村大字福井にあり。八幡城址は細川村大字伏尾に、止々呂美城址は止々呂美村大字止々呂美にあり。止々呂美城址は馬場信高の占據せし所にして、附近に鹽川隱岐入道の故聚なるものあり。止々呂美村に鑛山あり、銀及び銅を産す。

箕面公園は池田町の東方に位する攝北の一勝地たり。大阪より行いて遊ぶものは、



箕面湖

通常阪鶴鐵道にて池田町に至り、其より遊ぶを便とすれども、茨木驛より下車し、山崎街道を一里許り西に進みて山に入れば、二里餘にして達す。今、大阪府の公園になり。まづ、平尾村の一村落を離れて箕面川に架したる一鐵橋を渡れば、地は既に公園に瀟せり。橋畔、一老楓樹あり。紅葉の節は絢爛人目を奪ふ。一の華表を過れば坂路や、險峻なり。登り盡せば一平地あり。眺望や、廣濶なり。新道は溪に沿ひ、崖に凭り、行路屈折、備さに山水の美を極む。寺の總門に入らんとする所、旗亭二三立てり。かくて本坊に通ずる朱欄橋の下を過ぎ、鬼の架して役小角を渡らしめたりといふ前後鬼橋を渡り、猶行くこと數町、忽ち溪峽然として前に展げ、巨岩轟として路に當る。傳へ言ふ、來朝の唐使險を恐れて、奥を極めずして歸り去りたるところなりと

土俗唐人モドリ岩と呼ぶ。楓樹の多きは此附近を以て第一となし、夕陽之に映じ、行人皆赤からんとするの趣あり。溪に添ふて猶進むこと數町、その窮まる所、鏗然として一瀑の落下するあり。これ有名なる箕面瀧にして、高さ十六丈、幅三間餘、深潭清溪をなし、頗る幽邃の趣に富めり、瀑上の岩に自龍石、坐禪石、錫杖石等の名あり。瀑、惜むらくは雄壯の趣を缺けど、なほ其形姿は優に美なり。凡そ箕面の山水の取るべきもの三つあり、曰く溪の淺からざると一、紅葉の多きこと二、瀑の大瀑なることその三なり。蓋し此山水は近畿中最も卓れたるものと言ふべきか。旅客は必ず一訪せざる可らず。

龍安寺 吉祥院と號し、箕面山中にあり。白雉年間役小角の開創にして、天台修驗道を奉じ、歷代天皇の御祈願所たり。本地堂には智證大師作如意輪觀音を安じ、行者堂には小角自作の影像を安置せり。本尊辨財天また小角の作にして、近江の竹生島、相模の江の島、安藝の嚴島と共に、日本四辨天の稱ありといふ。

妻野村大字畑の山中に一瀑あり、石積瀧といふ。一道の溪水亂石の間より斜注して小蟹川となり、箕面川に合す。傳へいふ、此地石積連の舊蹟なりと。

久安寺 細川村大字伏尾にある、眞言宗古義派の巨刹なり。大澤山久安寺安養院と號し、神龜年間僧行基の開基、賢實上人の中興なり。本尊には觀世音を安奉す。往古は門前の僧坊殆ど千戸に達し、今も寺尾千軒の名を存すと雖も、中世以後漸く衰微せり。寺庭は、豊臣秀吉が賞して以て庭園の範と爲せし程にて、往時頗る美觀なりしも、今大に頽廢せり。唯境幽邃なるを以て、頗る塵熱を忘るゝに足るあるのみ。寺の附近に東の瀧、連理の瀧等あり。寺内に小鶴の庭あり。

能勢の妙見堂 東郷村の南方妙見山山頂にありて、北は京都府に近く、西は兵庫縣に境を接せり。昔はたゞ邊陲の一堂宇たるに過ぎざりしが、徳川幕府中頃以降より、其靈驗四方に喧傳し、信徒の來賽するもの漸く多し。今日に至りては益々隆盛を極め諸社の數三百有餘に達し、信徒十萬の上に出で、殊に、厄難、病苦のもの、或は瀧に

浴し、或は祈禱を凝し、參籠十數日に亘るものあるに至る。まことに其盛なる、關東の織田不動に匹敵すべし。而して其來賽するものは、京阪並びに神戸、尾張、美濃及び三備、二丹の地方を最も多しとなす。山は海拔約九百米突ありて、堂に在るまでの登路頗る艱難なり。寺域には本堂、經堂、繪馬堂、寶庫等、漸趨相接し、接續せる地には、旅舎肆店陸續として竟を此べたり。毎歲舊二月初午の大祭には賽客の雜沓を極め、満山殆ど立錫の地なきに至るといふ。蓋し流行佛としては、近畿地方、屈指のものたり。本尊の妙觀菩薩は長け二尺五寸許り、何人の作なるやを知らず。

妙見山の近傍なる吉川、東能勢の諸村には、銀及び銅を産する礦坑數百所あり。また地方は氣候寒冷なるを以て、寒天の製造に適し、日本有数の注産地と稱せらる。

若川村の山上に七寶山高代寺あり。多田滿仲の祈願にして、天徳二年の創始にいはる。古昔は殿堂谷を埋め、山に凭りて、女人の高野と稱せられしものなれど、今は唯二三の僧坊を見るのみ。宗旨は眞言を奉せり。

此地東郷村大字地黃に延喜式内野間神社あり。眞如寺あり。清普寺あり、清普寺は眞如寺と同じく、日蓮宗を奉じ、能勢氏代々の菩提所たり。

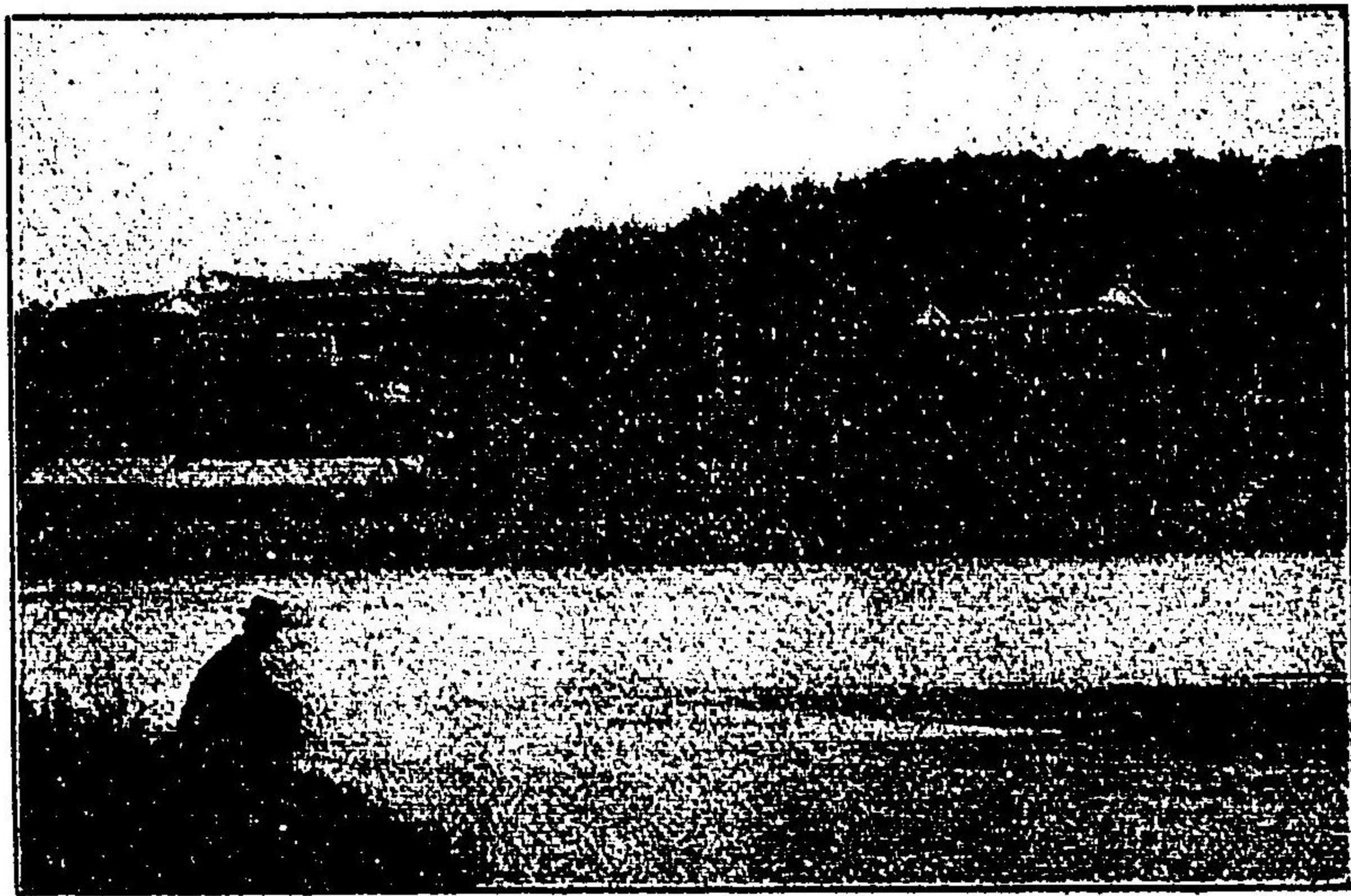
西郷村に至りて、大字柏原に曾我の祠あり。曾我兄弟の靈を祀る。傳へ言ふ、況弟の侍臣、鬼王、團三郎、曾我兄弟の没後こゝに來りて舊主の菩提を弔ふ。祠は其舊地なりと。鬼王、團三郎の墓また附近にあり。

久佐々神社は西郷村中宿野にあり。里俗呼んで草々明神と稱ふ。延喜式内なり。一花草と稱するもの、社の神籬中に生ず。小草葉を長する二寸許り、夏期は脱落し、冬期花を開く、梅花に似たりといふ。

下樋山 劍尾山又は月峰山といふ。獨秀の孤峰にして、西郷村大字大里にあり。登ること二里、山嶺は柱古月峰寺の舊址にして、眺望甚だ快豁なり。なほ山頂に不動石あり、石面に不動尊像を安す。其他蓮華石、梵字石、白蛇石、黒蛇石等あり。月峰寺は今徙して大里にあり、聖德太子の開基にして、百濟國日羅道人之に劍尾山の號を



四天王寺造營の時、一夜天女の宣托に逢ふて、此處に梵刹を營み、百濟の僧惠聰、惠便をして之に居らしめ、物部守屋の靈を退治す。之れ今の奥の院なり。金堂の西に藥師堂あり、東に地藏堂あり。又太子堂はその東に隣り、食堂は下段の東方に立ち、内に五百羅漢を藏す。食堂の隣に十王堂、又俗に石の唐櫃といふ白鳥の窟あり。奥の院坂路には忍熊の廟、夫婦石、之れより一町許を隔てたる山上に馬蹄石あり。境内一帶に櫻樹を交へ、山頂の眺望亦全郡に比なし。山の東北十八町許に天宮卒都婆ヶ嶽又は稱小墮峯あり、太子は此處に佛舍利を藏め守屋の靈を慰めたりと傳ふ。駒足洗川は當山の西を流れ、勅使川は門前の東を走る。此の他美丈丸學問所、獨鈷尾別所院の跡大戀水、爪形天神、惠日庵等の名蹟、枚舉に遑あらず。奥の院の西南十町許を隔て、小濱村大字米谷の山中に清澄寺あり。古義の真言に屬し、弘法大師作の大日如來を本尊とす。寛平五年宇富天皇佛工定圓に勅して釋迦、彌陀、彌勒の三尊を刻せしめ、靜觀益信の二僧に命じて一精舎を草創せしむ、山中の坂路頗る峻嶮、寺内方丈の庭園は支



泉 温 塚 寶

那廬岡の風景を模するものなりといふ。附近に日本第一清荒神社といふあり。宇多帝の寛平七年の敕願によりて草創せし所なりと傳ふ。此の邊一帶、鑛泉の湧出するもの多く中山驛に近く中山鑛泉、寶塚驛に近く寶塚鑛泉、生瀬驛に生瀬鑛泉あり。全く炭酸泉にして、地亦よく避暑避寒を兼ねたり。寶塚温泉 阪鶴線寶塚驛より僅かに二町、宏大なる浴舎旅亭の建築は、武庫川對岸の高地に連り、背後には讓葉の多き讓葉嶽聳へたり。此の山間に窟あり、讓葉の窟といふ。清少が枕草紙に『峯はゆづるはの峯』





とあるは蓋しこれを指せしなるべし。炭酸泉にして、多量のコロールナトリウムを含むが故に、皮膚の薄弱なるは最も之に適すべし。

有馬温泉 即ち有馬町とも言ふを得べし。

馬 市は武庫山の西北、鹽原山に懸り神戸市より五里二十七町、大阪市を距る十三里半、山陽幹線によれば住吉驛より六甲山を越えて凡三里、阪鶴線によれば三田驛より三里、車馬の便あり。町は本來湯山と稱し、人口凡一千八百を有し、人家は凡て山腹に據りて層をなし、軒を連ね、名産有馬筆、

竹籐の細工、有馬焼その他百貨の用を便せざるなし。温泉宿の重なるものは、奥の坊、二階坊、池の坊、御所の坊、中の坊、尼崎坊、角坊、北の坊等にして凡そ三十戸あり。地の高さ事海拔凡そ一千百五十五尺、大氣清く澄みて、而も晩秋に楓あり、近傍名勝古蹟の見るべきもの多し。本泉は遠く神代より湧出せるもの、又別稱冷浴場、炭酸湯、新湯、妬湯、眼洗湯等あり。

温泉寺 湯の山町の山續きなる愛宕山の半腹に温泉寺あり。行基僧正の開基に係り、新義真言宗にして京都智恩院に屬す。一度荒廢に歸したりしを、天正年間豊臣秀吉の夫人北政所の再建したるものなりといふ。本尊は良覺律師作、丈六の薬師像、又行基僧正の彫刻になれる靈體の長け一尺なる、弘法大師作の脇士日光月光、運慶湛慶作の十二神將等を藏す。此他所在を同じうする極樂寺は薬師堂の東に位し、浄土宗鎮西派に屬し願舉上人の開基、清涼院も亦薬師堂の東に在り、黄檗宗に屬し行基僧正の開基、境内に清盛塔、太閤願ひの温泉、慈心坊の塔等あり。念佛寺は浄土宗鎮西派に屬

し、本尊に安阿彌の作、長け二尺五寸の阿彌陀佛を藏す。報恩寺は眞言古義にして仁西上人の開基、本尊は覺鑿上人作の不動明王、別に聖德太子作の長け一尺二寸の重像を藏せり。山上に愛宕祠あり、薬師堂の上方二町餘なり、社前の眺望廣く、見渡さるゝ連嶺の中、東北遙かに山城愛宕山の峰を指點すべし。

温泉神社 元は湯山三所大権現と稱し、温泉寺に屬したりしが、維新後分離して今の郷社となせり。熊野權現、三輪明神、香下明神の三座を祀り、土地第一の大祠にして、社殿は明治十六年の新築にかゝる。

落葉山 湯山町の西に峙つ。拋木山、中男山、道場山といふ即ち之なり。山中古城址あり、天文年間三好宗三の占據せし所にして、播州三木の城主別所豊後守の爲めに陥れられたるものなり。此の故に山を又城山ともいふ。山麓の一寺は善福寺なり。曹洞宗に屬し、行基が開基、仁西の中興、東天竺毘舍離國の月蓋長者が閻浮檀金を於て鑄せしといふ阿彌陀一光三尊佛を本尊とす。秀吉眞筆の狂歌を什寶の一とす。

鼓ヶ瀧 南の澤にある高さ三丈半幅二丈、巨巖鬼崖たるが中に落ち懸る水聲洞谷に響きて、さながら鼓を鳴らすが如し。晩秋は夕の霧の紅葉、明るき春の晝は瀑前の有明櫻、彼は野面此は花下、眞に人事を忘れしむるの思あり。瀧の奥に蜘蛛の瀧あり、その奥に瀑下悉く光ある白石なる白石の瀧あり。此の他湯山の東南にある功地山、又北方四里に登えたる有馬富士等の六長及び安藤亭十二景を廻り、訪は、船坂より生瀬に至る小多々川の流域、四十八ヶ瀬屏風岩の奇勝をも訪ふべし。かくて伊丹町を距る事二里半、湯の山を距る事凡そ二里、有馬街道の一驛生瀬に達す。

淨橋寺 十方山と號し同地にあり。西山宗派に屬し、寛文元年の草創、善惠上人の開基、本尊は阿彌陀佛なり。一名鐘あり、讃岐の配所なる法然上人の西山上人に贈りたるもの、中世騒亂の際一度その行方を知らざりしが、後京都建仁寺より再び之を戻したるものなりと傳ふ、阪鶴緑生瀧驛に近く生瀬鑛泉あり。近年の開闢なれど、山と溪と樹木の風致を愛して來り浴するもの多きに至れり。之れより北、武田尾の小驛を過

ぎ、道場に至る間、鐵道線路は、高座山及び大峯の谿を縫ひて走れるが故に、勾配急にして、武庫川の山峡中、十一の隧道を貫きたり。武田尾驛に、俚俗銀龍水と唱ふる鑿泉あり。寛永年間の發見にかゝるといふ。

●●●●● 道場村大字生野の南方に在り。千仞の蒼き崖、之より突出せる奇岩の縦横せる谷底を一葉川は流れたり。奇岩の中、鑄佛巖最も奇なり。水より高き事數十丈、而も岩上平かにして百疊を敷くべし。昔弘法大師佛像を岩に鑄ると傳ふと雖今苔深くして見るべからず。溪流一葉の上流一瀑あり、振鷲瀑と名く。常は靜かなると懸絲の如けれども、一旦暴雨に逢へば、水は怒り溢れて、落つるさまさながら白鷺の翼を振ふが如し。同じ谷間に最明寺殿の塔あり。

●●●●● 三輪寺大字山田にあり、聖德太子の開基にかゝり、同じ人の作、千手觀音を本尊とす。傳へいふ、古へ敏達天皇の十年蝦夷の邊境に寇するを屢となり。時に年尚幼稚なる聖德太子、自ら靈馬に鞭つて出で、方便の局に智恵神通の鑄矢を擬して射る、

飛箭鳴動して山河爲めに崩れんとす。蝦夷全く降る、故に鑄射の名ありと。

●●●●● 神戸市よりすれば北七里二十九町、有馬郡の小盆地に三田驛は位す。有馬郡内第一の都會にして人口凡そ四千餘、郡役所、稅務署、農林學校等の設けあり。町は驛を距る里程、自ら郡内百事の集る所、又播丹街道の要樞に當れるを以て、人馬の交通、百貨の集散共に繁く、市街は有馬町に比して頗る質素に、商況は反つて彼を凌ぐと多し。舊と九鬼氏の居城地にして、維新後破壊せられたる三田城址之なり。町内三田神社は全町の鎮守神、車瀬の城址は有馬氏累世の居城、清涼山心月院は舊領主の菩提所、車瀬橋を架せる三田川の岸邊は初夏の頃の眺め殊によろしく、螢の一名勝なり。町に三田焼と稱する陶器を産す。天龍寺青磁に類似す。

●●●●● 郡内三輪寺大字尼寺に在り。花山院の草創にかゝり、同后落飾の後入りたまひし所なり。花山院の廟皇后の塔あり。法皇皇后の始めて此寺に入りたる時、官女等をして、目下琴を彈せしめたる故事に據り、近く琴彈阪の名を有せり。古來國風

に詠まれたる羽束の里は近き、香下の古稱にして、羽束山登えたり。麓に一古址あり、建武年間赤松圓心播州在陣の折、之に據りたりと傳ふ。又香下寺あり。敏達帝の十二年日羅道者の開基なる處、同じ人の作十一面觀音を本尊とす。

●青林寺 中野村大字青野に在り、青葉山と號す。慈心房尊惠上人の開基、古へ丹波多紀郡高城々主の祈願所にして建築壯嚴を極めたりしが、天正年間明智光秀の爲め、灰燼に歸せしめられたり。近き東末に岩窟の跡あり、末の窟と稱す。その數實に三十餘、最も大なるものは、窟中に廊或は二階等を設けたり。傳へいふ、太古、火雨火風の時、誰か此處に避けんが爲めに造りたるものなりと。

●水晶山 有野村大字唐櫃の近方に在りて、六甲山に連り、山中、天狗巖、蜘蛛巖等あり。皆その形様の奇なるによりて名けたり。又二個の窟あり。柳の窟は窟中に柳葉様の形をなし、百足窟は深くして曲折多し。此他姥谷瀧、深戸瀧、水無瀬瀧等ありて探るべき奇勝少なからず。隣村八多村大字付物に在る奥藏寺は、往古の巨刹にして、

帝釋天を本尊とし、一度天正の兵火に罹りて焼亡したりと雖も、尙辨慶裏書の大般若經等の什寶あり、近く大澤村には簾の瀧あり、土人呼んで水簾といひ、飛泉の直下して懸れる、又一奇觀なり。

●大阪神戸間 大阪平野の海岸に添ひて次第に狹長となれる地方にして、官設鐵路と阪神電氣鐵道とは此間を通過す。尼ヶ崎、西の宮、住吉、御影等の名邑あり。武庫川の鐵橋を渡りてより、六甲山脈鬚眉を壓し來り、南は大阪灣の蒼波渺茫として相連り、風光描くか如し。途中甲山の突兀として車窓の右に聳ゆるを見る。西宮附近の地は清酒醸造の根據地にして、商業頗る盛なり。住吉驛より六甲山を踰れば、有馬溫泉に三里にして達す。

●尼ヶ崎町 大阪市の正西に位し、人口二萬、戸數五千を下らず。街衢の壯大なると、舟楫の便に富めると、東西に大阪市及神戸市を控ふると、一見商工業の盛なるを見て、小大阪と稱せざる能はざるべし。中に尼ヶ崎紡績會社最も宏大に、且繁盛なり。町内



物浦なり。歌に姫島と詠せられ、大和物語に蓬刈島といはれたるも亦此浦なるべしといふ。

琴浦神社 武庫郡大庄村大字東新田に在り、往昔河原左大臣、京都六條河原院に別墅を設けたる時、鹽籠の風景を賞せんが爲、日々此海濱より潮を汲みて運搬せしめたり。即ち此處にその鹽を鎮むと傳ふ。附近の海濱を名けて琴浦といふ、遙かに海を隔つる南方、青靄の底に紀伊、和泉の浦々を望む。風色の美、古來詩歌中のものに富めり。

西の宮町 神戸市を去る東西方三里半、郡の南方海に近く、人口一萬七千を有す。北より南に低き地勢の街衢に、萬般の商賈相櫛比して連り、加之所謂灘目八郷中の王、海内屈指の清酒醸造地として酒造家の工場、軒を並ぶるが故に、富豪多く、人煙甚だ豊かに、郡中第一の繁華と活氣とを感せしむ。山崎街道は町の中央を貫き、港内常に汽船の輻湊するありて、國內の名地に致せる酒類の直輸出は、日にその歩を進む。

大國主西神社 俗に西宮の蛭子といひ、同町市庭町に鎮す。天照大神、素盞鳴尊、蛭兒尊の三座を祀る。鬱蒼たる樹木は廣き社地を蔽ふて晝も尙暗く數多き攝社或は末社の類之を圍繞して散在す。神祭を毎年陰曆正月十日に行ひ、世に之を十日蛭子と唱ふ。遊樂の人の來り集まる者夥しく、阪神間の鐵道は定期の如く臨時流車を發す。

越水城址 西の宮町大字越水にあり。今殆ど荒廢に歸して當時の面影を見る能はざるも、これは永正六年細川高國の屬將瓦林政頼之に據り、細川澄元は四國の兵を率ゐて兵庫及び甲山に陣し、三好元長をして兵を紺部、西宮に陣せしめ之に迫る。高國乃ち丹山兩州の兵を率ゐる牙營を豊島郡の池田におき丹波の守護代内藤貞政を先鋒とし、赴いて政頼を救はしむ。翌年正月大に城東に戦ふと雖、高國の軍遂に利あらず、丹州に退く、次で城中糧漸く盡き、援兵到らず、三月落城、三好此の占據する所となれり。此の近傍は又彼の足利兄弟の相戦ひたる處。兄の尊氏敗績して高師直等と共に、退き入たりと傳ふる松岡城は、今の鳴尾村大字小松、これと鳴尾の中間なる山上に在りたり

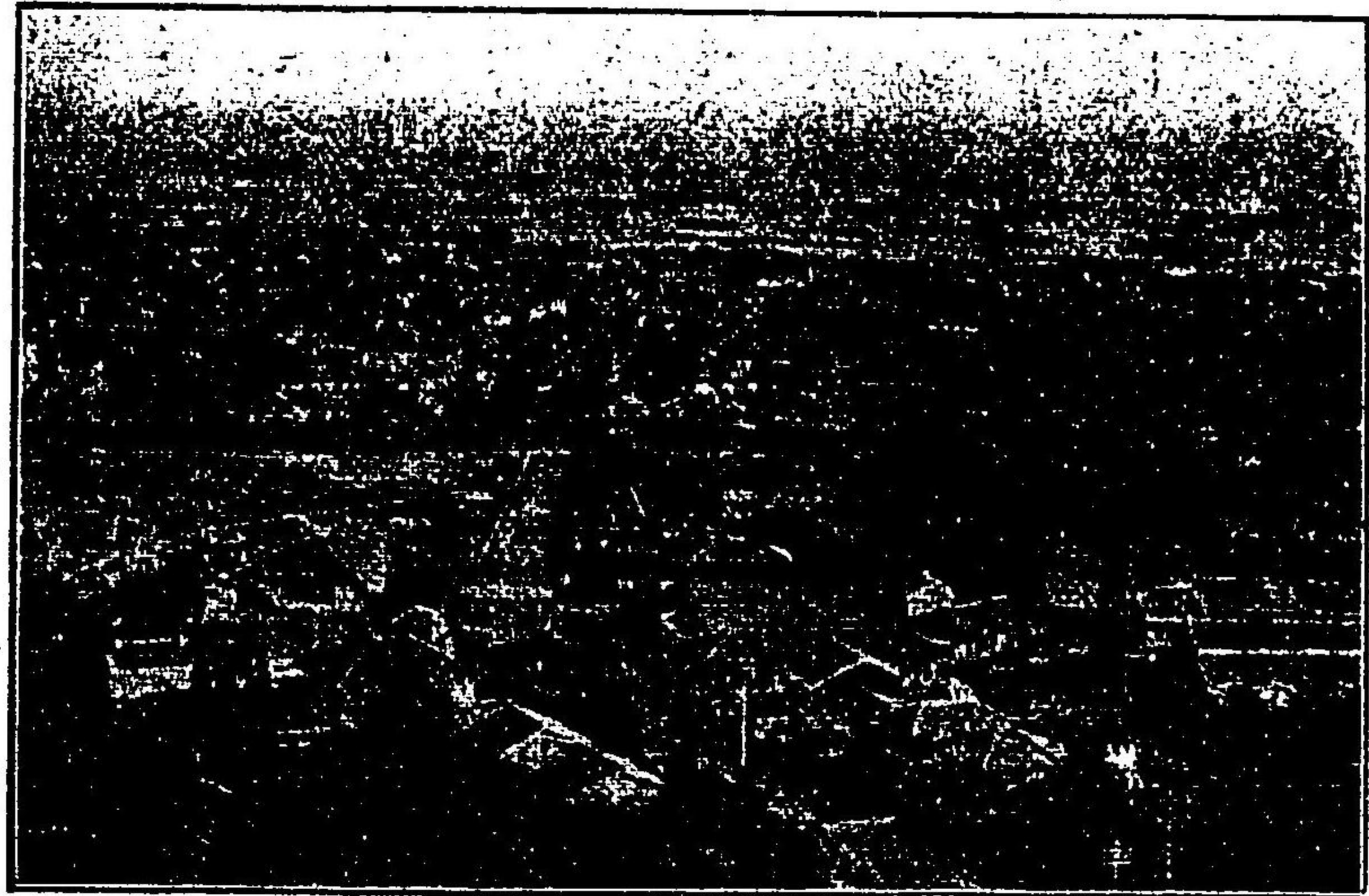






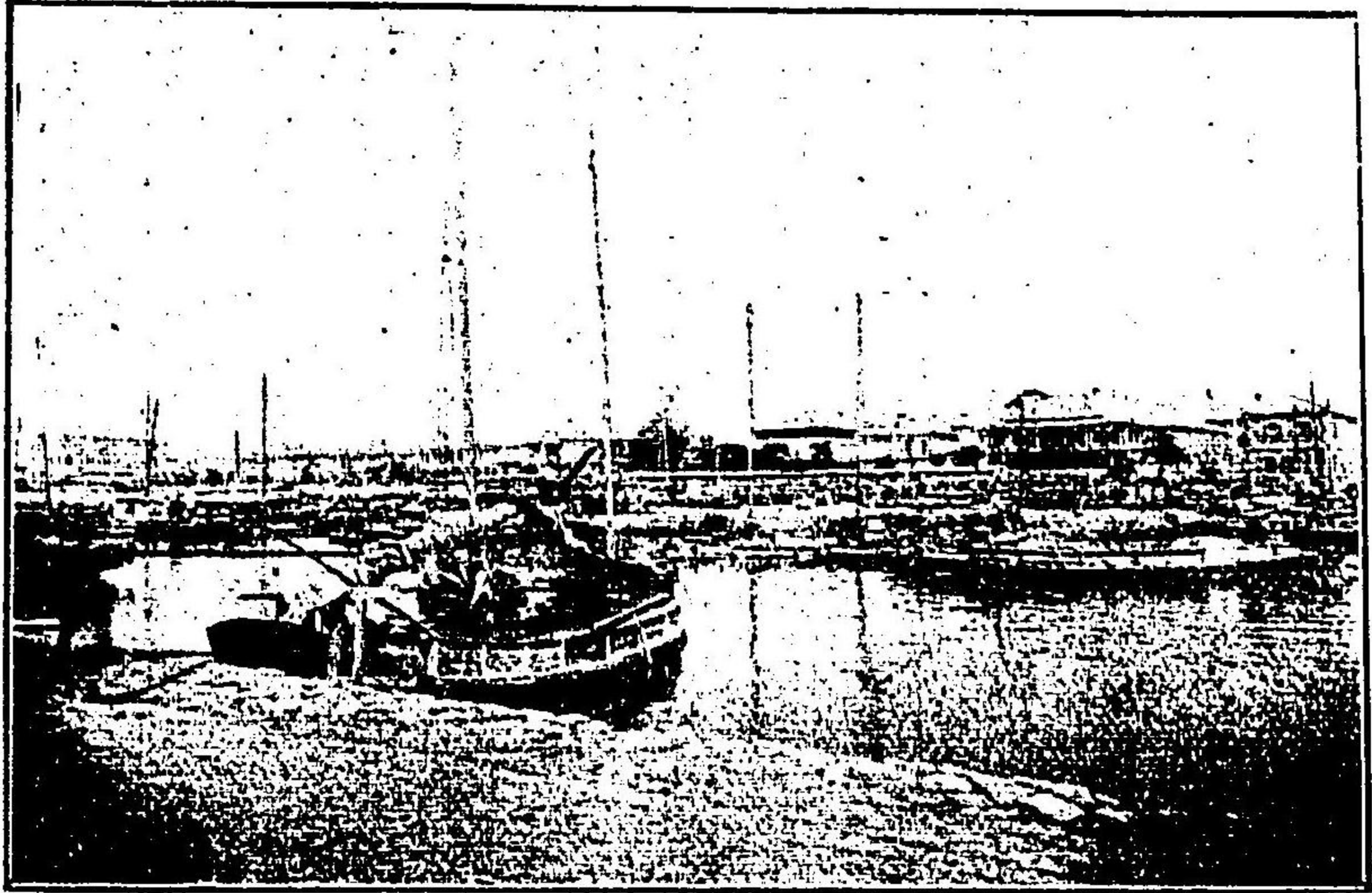
耶山再度山鷹取山の翠を負へる處、長く海中に突出せる舊湊川水路口の三角洲は東西に神戸兵庫の兩港を分つ。本市及兵庫葎合の兩區合せて人口實に三十萬、地は東南より西北に高く、山手通山本通りに至れば、下に神戸港の全景を見、遙かに淡路島と明石海峡を過ぐる白帆の影を指點すべし。相生町三丁目なる神戸停車場を出で、北に進めば、有名なる相生橋なり。東北は繁華なる元町の街路、西南は多聞通にして直ちに楠公社前の賑ひに接し、西には鐵道作業局の工場其他の大小工場、又遠く川崎造船所の煙突の林立して煤煙の濁くが如きを見る。相生橋の東南、鐵道線路より海岸に至る一帯の地區を市の業務區となし、神戸市役所、商業會議所、電話交換所等は此の大路に沿ひ、郵便局は榮町六丁目と相生町との相交又せる東南の一角に聳えたり。榮町一帯には神戸商品取引所、日本紙類株式會社、北濱銀行支店、正金銀行支店、三十八銀行支店、三井銀行支店、神戸電燈株式會社等ありて、全市金融の中心を占めたり。港は舊湊川の河口、川崎町の絶端と元居留地の東南端とに包擁せられ、中に棧橋五個を有す。海

岸通りには、メサシユリメリタム會社、ビーオー汽船會社、北獨逸ロイド汽船會社、カナダ大平洋鐵道會社、日本郵船會社、及び各國の貿易商代理店又はオリエンタルホテル、メトロポールホテル等、宏壯にして特色ある建築を連ぬたり。元居留地は今、明石町、播磨町、浪花町、京町、江戸町、伊東町と稱し外國の商賈多し、東町には舊生田川の堤防なりし處に元居留地遊園地、瓦斯會社、外國人墓地等あり。これより三の宮に向へば、神戸警察署及三の宮神社あり。北長狹通を北に進めば生田神社及び、史上に記されたる生田の森あり。生田神社の前を下山手通といひ地勢漸く上る。兵庫縣廳、縣會議事堂等あり。續きて山本通に本願寺別院、更に北すれば諏訪山の公園地に至る。再び相生橋より湊東區に入れば多聞通に湊川神社、神社より北に四町、楠寺あり。又神社の東門の前なる建物を神戸地方裁判所とす。舊湊川の水路を左にしたる附近を總稱して川崎町といふ。有名なる川崎造船所あり。神戸相生町通に接して、兵庫區中最も繁盛なる本町通となる。その南方なる川崎町通之に亞ぎ、入江



通、小川通、須佐通等重なるものとす。平清盛が福原遷宮の時、埋立てたりといふ築島は島上町にあり、憤りて身を海底に人柱となり、以て工を終えしめたる侍者松王の故蹟は同町來迎寺に存す。中の島に近く、新川と運河との會する處を逆瀬川町といふ街 清盛塔あり。附近に眞光寺、能福寺の巨刹 及平經政の琵琶塚、住吉通に神戸瓦斯株式會社、須佐通より松原通及芦原通に跨りて 監獄分署、柳原町に兵庫停車場あり。東に向ひて運河の二岐に分るゝ處に、神戸煙草專賣支局、運河會社、八階の眺望臺、芝居

小屋、火藥庫、陸軍墓地、吉田新田には規模頗る宏壯たる鐘淵紡績會社あり。兵庫の西南端、和田の崎に近く、和田神社あり、三石神社あり。三菱會社の船渠建設地に從ひて南せば、岬を作る洲濱の端に和樂園あり、四時來り遊ぶ者多し。市の東部なるを葺合區となす。新生田川以東の地なり。高等商業學校、博物館、商品陳列所等あるのみ。川の上流に布引山、その麓に布引鑛泉あり。山に水道貯水地、布引瀧あり。交通は既往三十年間に驚くべき發達をなし、西、山陽鐵道線にて山陽一帯の有らゆる都會を經由し、下關、門司を経て九州鐵道に通じ、東、東海道線に由りて、三府と連結し、更に日本鐵道線にて、青森に連絡せらる。その他、神崎より分岐して、攝丹を縦斷せる阪鶴線、大阪より分れて奈良を經、名古屋に至る關西線、泉州の野を過ぎりて和歌山に達する南海線、大和、紀伊に通ずる紀和線など、一として連絡せざるはなし。また阪神電氣鐵道は、官設鐵道と並行して、大阪神戸間に通じ、斷えず往復しつゝ、あり。海上の交通に至りては、幾多の航路、左の表示するところを見るべし。



四九〇

東北航路 横濱を経て萩の濱、函館、小樽に至る。  
 北海岸航路 尾道、下関、境、敦賀、七尾、伏木、直江津、新潟、酒田、土崎、能代、函館、小樽等の間の往復。  
 四國航路 一は高知、宿毛間を往復し、他は、多度津、今治、三津濱、長濱、宇和島間を往復す。別に高松通ひの一航路あり。  
 九州航路 別府、佐加關、佐伯、細島、油津、鹿兒島間を往復す。  
 臺灣航路 宇品、門司、長崎、基隆、澎湖島、安平、打狗間を往復す。

尙、郵船會社の海外航路を擧ぐれば左の如し。

歐洲航路 門司、香港、新嘉坡、坡南、古倫母、蘇士、ボートセット、馬耳塞、倫敦、アントウエルプを往復す。

米國航路 門司、上海、香港、グイクトリア、シャートル間を往復す。

南清航路 下の關、長崎、上海間を往復す。

濠洲航路 門司、長崎、香港、マニラ、木曜島、タウンズグイル、プリズベン、シドニーの間を往復す。

印度航路 門司、香港、新嘉坡、古倫母、孟買の間を往復す。

神戸市の沿革は横濱市の沿革と基礎を同じうす。今、大日本地誌に由りて、維新前の沿革を記せん。

徳川幕府時代、菟原郡に神戸村、走水村、二ツ茶屋の三村あり。人口稀少にして、海濱の一村落に過ぎざりしも、人、現にこれを稱して神戸の津と稱せり。されど古き歴史を討ねれば、此一帶の地は猶ほ趣味多き沿革

に富めるを見る。兵庫が豊臣氏時代に於て、帆樫林立、家屋櫛比、既に繁華なる港を爲し居たりしは言ふを俟たず、平清盛が一代の驕奢に耽りて、遷都を試みたる福原の地も實にこの一帯の地なること歴史に明かなり。また、更にそれより上古に遡りて、紀元八百六十五年前後、三韓常に貢を我國に納め、其船舶は兵庫の地に集り、亭館を置き、方物を献じ、大に我國に支那文明の粹を傳へたるが、その門戸たりし兵庫の水門は、即ち今の兵庫港なりとの説さへあり。されど此地の沿革は、清盛が遷都を以て始まるを正しとすべし。清盛が經營したる福原の都は今の夢野より福原を経て兵庫の海岸に至れる一帯の地にして、兵庫の築島町は當時經ヶ島と言ひて、清盛か三十人の人柱を埋めて以て辛うじて墳築したるものなりと傳ふ。治承四年六月、遷都は行はれたれど、其時皇居の築造も未だ完からざりしもの、如く、安徳帝を假に池大納言頼盛の山莊に奉したること史に見ゆ、而して、その山莊は、今の荒田町の東北有馬街道の西、古松數株繁茂せる權現池と呼ぶあたり、即ちその址なりと言へり。新都の經營は充分に行はれたる如くなれど、當時人心動搖して、諸國の源氏既に兵を起し、公卿百官また戀々として舊都を戀ひたりしを以て、同年十月再び平安都に歸營あらせられたり。鴨長明方丈記に記して曰く、『其時、おのづから事の便ありて、津の國今の京に至れり。所の有

様を見るに、其地ほと狹くして、條里を割るに足らず。北は山に添ひて高く、南は海に近くて下れり。浪の音道にかまびすしくして、鹽風殊に烈しく、内裏は山の中なれば、かの木の丸殿もかくやとなか／＼に様かほりて優なるかたも侍りき。日々に毀ちて川もせきあへず、運び下す家はいづくに作れるにかあらん、猶空しき地は多く、作れる屋は少し、故郷は既に荒れ果て、新都未だ成らず、ありとしある人皆浮雲の思を爲せり』と。當年の光景、想見するに堪へたるにあらずや。

平家滅亡後、兵庫は再び以前の漁村となりしが、南北朝の頃に至りて、足利尊氏東上の亂あり。楠正成は淡川に戦死し、新田義貞は和田岬、生田森に敗れ、南朝遂に再び振はずなりぬ。かくて天正年間に至り、豊臣秀吉覇を大阪城に唱ふるや、兵庫は此時既に純然たる百貨輻輳の商業地として儼存し、戸口蕃殖、家屋櫛比、街形全く成りて、旅客四方より集り、住民また漸く富み、四國、九州、中國の海陸産物の大阪市に入るものは、皆一度此地を経るに至れり。徳川氏中葉の頃、即ち天明年間に至つては、其發達愈盛に、諸國回漕の船舶は皆な其津に渡り、此時既に、兵庫港の風俗は馴致養成せられたるがごとし。天明八年の戸籍帳によれば、其時、既に戸數五千九百九軒人口一萬九千五百八十餘人を有せり、而して、其住民は多くは商賈にし

て小賣商の他、問屋、仲買商甚だ多かりき。且其住民の有せし船は總數七百八十二艘と注せられぬ。

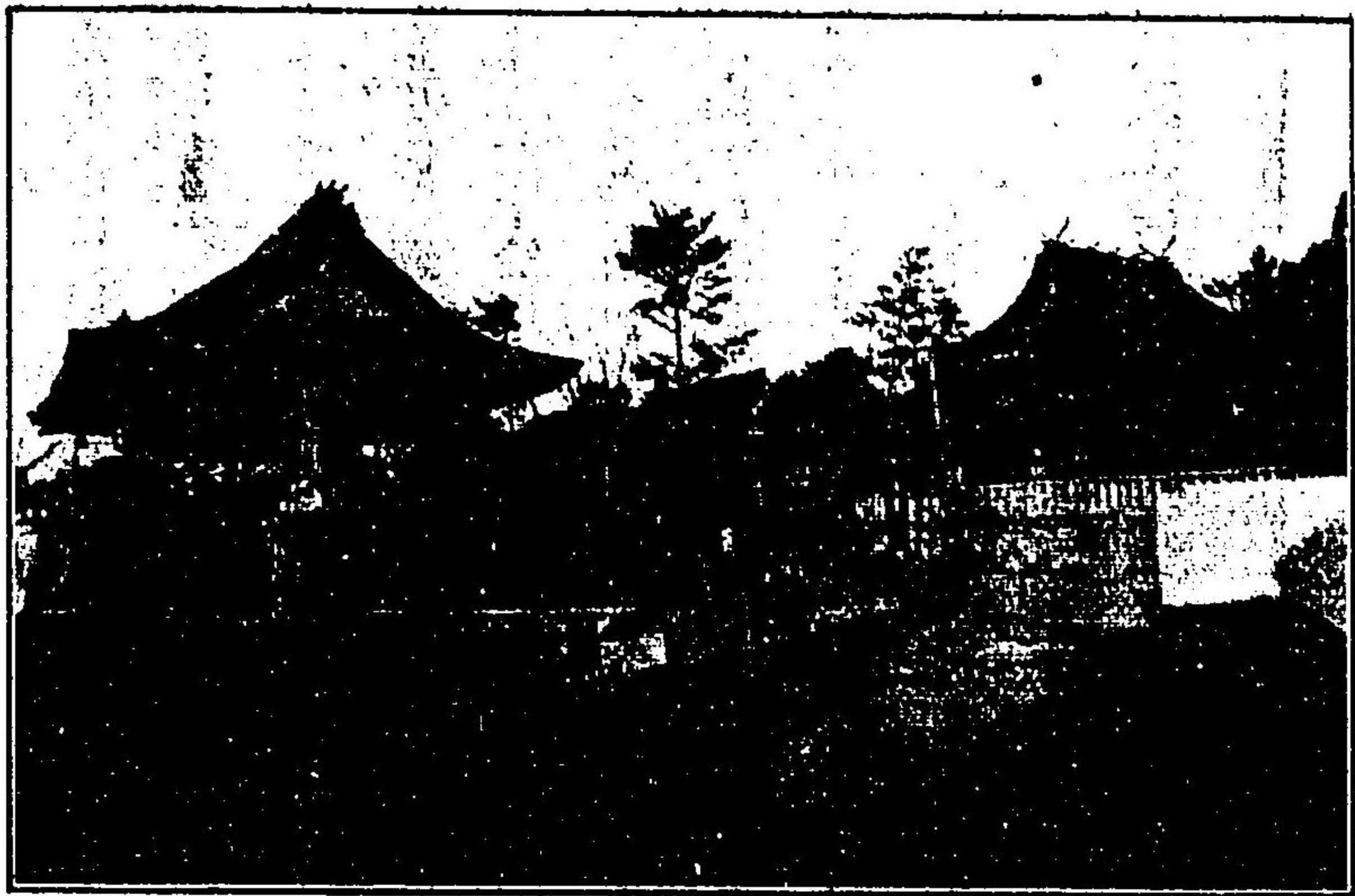
當時の兵庫津の區域は甚だ今日と大差なく、沿海一里四町、南北十九町にして、東は湊川を以て界とし、西は柳原を其の盡頭と爲し、北濱、南濱、岡方の三區に分てり。而して一條の西國街道は、西柳原の總門を入りて、東柳原、逆瀬川、神明の三町を經、小廣町に至りて少しく折れ、北仲、小物場、木場、木戸、江川の數町を經て、湊町總門に達せり。是より湊川堤防までは一町半に過ぎず。

これより湊川の堤防に至れば、松樹列を爲し、松籟の聲濤聲と相交り、眼下には、二三の人家と、弓弦のごとき波打際に、白波の徂徠するを見るのみなりき。今まで傳ひ來りし路は十町弱にして、とある蕭條たる漁村の中に入り、兩側には松並木二十餘株、これに由りて、西國街道のいかなる方向に走れるかを指點し得るなり、願望すれば、水田菜圃その左右に連り、尙ほ堤下より街道に岐れて、斜に田圃の間を通する一條の捷徑あり。これ、兵庫より神戸村に赴く間道なり。その間道の極る處、一區の墓地ありて、この漁民の共葬地なりき。想像せよ、東北には摩耶、六甲、再度の諸山翠微を凝して抱くがごとく、この半地を包み、積々たる田圃の盡るところ、數竿の漁網高く夕陽に曝したるを見る。月は暗し楠公墓畔の村と吟じけむ當時の顧客の

慷慨も偲ばれて、そらるに昔を思ふに堪へじ。若、楠公墓はと問はば、僮夫漁師は肅然として容を改め、見よ、路傍に楠公之墓と記されたる標石あらん、其處の北に見ゆるは坂本の村、それより畦道五軒も行かば、赤松十數株即ち其處ぞと教へたるならん。あゝ、當時の寂寥、實に斯くの如くなりしなり。

かくて、この寂寥極れる街道を去りて、更に東すれば、人語歴落、炊烟迷離、これ即ち走水村なり。村を擧げて繰かに百四十餘戸、更に進めば、二つ茶屋に至る、民家は三百を出でざるべし。神戸村は其東に位し、前の二村に比すれば、村域稍々大に、人家五百を越えたり。文久、慶應の當時は三村共に幕府直轄の地にして、その沿革は兵庫と變りたるところなきもの、如し。西國街道は、この三村の中央を横貫し、家々其軒をつられ、街道の兩側には細く汚き溝の通したるを見る。概して家屋粗陋にして、多くは茅茨を以て葺けるに過ぎず。只、街道の南、海濱近く、十四五の庫の長く連り合へるを見たり。これ、酒造業者の倉庫なり。住民多くは農に従事し、水夫の家また海岸に散在したり。走水天神社の傍に、一軒の旗亭あり、こはかれ等が船を停めて酔を買ふのところなりき。神戸村の東に、生田川流れ、それを隔て、生田宮村あり。樹木鬱蒼たる生田神社の森は、其前に長く八町餘の生田の馬場を起し、其堤防には櫻梅各々其妍を競ひ、其盡る處海に面し





湊川神社

四九八

せし佛人の爲めに紀念として設けられたるものなり。園中又鑛泉の湧くあるを以て、旅館割烹店ありて來遊するもの尠からず。湊川神社 西多門通三丁目にあり。別格官幣社湊川神社と稱す。有名なる碑「嗚呼忠臣楠氏之墓」は表門を入る右手、松樹の間にあり。裏面に清人朱舜水之瑜の撰文を刻す。又境内には、明治の初年公伊藤博文が、兵庫縣に令たりし時の紀念として設けられたる銅像あり。

楠寺 湊川神社の西門を出で、北行すること四町許り、阪本村にあり。廣嚴寺、俗

稱楠寺なり。元享元年の創建にして、元僧俊明極の開基、本尊の薬師佛は、僧正行基の作にして、後醍醐天皇の御寄附あらせられたるものなりと傳ふ。建武三年楠氏の一族七十三人此寺の客殿に於て自盡し、以來正成の菩提所となし、今猶楠氏一族の遺物を藏せり。境内に古梅一株あり、樹下に一碑を建て、藤堂龍山の撰文を刻す。

福原遊廓 寺の南方に當りて、多門道八丁目の北、湊川堤防の東に在り。妓樓の數凡そ一百戸、娼妓の數凡そ千人、街衢は専ら東京吉原に擬し、夜の神戸隨一の繁華を見る。

來迎寺 又築島寺といふ。兵庫區島上町にあり。又此の地一帯を築島又は經ヶ島と稱す。寺は淨土宗にして本堂には釋迦如來の畫像、平清盛鏡の影等を安置し、別に觀音堂には觀音の像を置けり。本堂の前に松王人柱の碑石あり。應保元年清盛此の地を埋めて島を築かんとし、民部重能をして工を掌らしむ。堤を築くと幾回にして而も終にその決潰を免るゝと能はず、即ち人柱を沈めて海神を宥めんとし、關を生田の森に設けて旅人を捕ふ。少年松王なる者あり、衆に代り身を海底に沈めて工を竣へしめた

りと傳ふ。

**眞光寺** 兵庫東逆瀬川町に在り。時宗にして大化元年僧法道の開基する處市内屈指の巨刹にして、阿彌陀、觀音、勢至の三尊を安ず。又開山堂、觀音堂等境内にあり。山門の前なる蓮池の畔に据えられたる金銅釋迦像は、眞光寺如來と稱へて著名なり。清盛の塔は寺の南方に在る十三層の石塔婆にして高さ二十六尺、面に弘安九年二月云々の數字を刻す。傳説によれば、養和元年閏二月、清盛京都西八條に薨せしを僧圓實その遺骨を携へ來りて茲に埋め、弘安九年北條貞時諸國巡察の際、此の塔を建てたるなりと云ふ。これと街衢を隔て、經政の琵琶塚あり。一ノ谷の役に没せし琵琶の妙手の靈を弔ふといへど、今名殘なく草莽に埋もれたり。

**湊川** 元來湊川は、有馬道の傍を流れて、湊山に沿ひ、奥平野の境を爲し、荒田福原の西を劃りて、神戸兵庫の境となし、川崎町の端に至りて海に注ぎしかど、明治三十五年改修の結果、奥平野の西、石川橋の畔より、新に水路を夢野に通じ、會下山の

南端に隧道を穿ち、西野にて長田より來れる刈藻川と合せしめ、西南して海に注ぐに至れり。故に舊湊川の流域は、以來巨大なる良地を拓き、將に一大遊園地を形成せんとせり。

**川崎造船所** 舊湊川の水路を左にしたる川崎の絶端、川崎町二丁目に所在す。元工部省製作寮の創立にして、後農商務省工務局の所轄となり、明治十九年川崎氏の所有に歸したるなり。五千噸以上一萬噸の商船及軍艦を作成すべき船渠、三箇の砲臺を有し、器械の整備、鑄鋼作業の熟せる、造船所としては、本地方此の右に出づるものなし。**和田岬** 兵庫港の西南に斗出せる砂濱の稱にして、岬頭に圓形の砲臺及び不動赤色の燈臺あり。春夏の候となれば、砂濱には茶亭を設けて、遠く紀泉の山影を浮べたる海灣の風光を稱せんとして來る者を待つ。燈臺の西二町餘にして和樂園あり、數萬坪の海濱を圍みて遊園の地となし、割烹店茶店、勸工場等その内にありて、便利なる納涼地を作れり。園の西數町の處に、本間孫四郎遠矢の跡あり。



和●田●神●社 和田新田にあり。縣社にして天御中主神を祭る。傳へ云ふ、萬兵二年武庫郡押照の宮洪水の際、神體の此處に漂著せしものなりと。八棟造りの壯麗なる本社前には、潮入の小江あり、橋を渡れば直ちに和田の岬なり。海上鎮守の神となし、毎年五月二十三日に大祭を行ふ。和田と稱する一帶の地は、建武年中、新田義貞楠正成が尊氏東上の軍を拒ぎし有名なる古戦場の跡なり。

長●田●神●社 和田岬の西北、長田村にあり。事代主尊を祀り、神功皇后攝政元年の創建、攝社二座、末社四座を有する官幣小社なり。社前に村上天皇雨乞の燈籠あり。俗に運の神と稱へられて、毎月一日には、藝娼妓或は投機商等に類する者の參詣多く雑沓を極む。

應●取●山 長田神社より北行して十八町の阪路を登れば、巔に達すべし、兵庫神戸兩港一望に集まる。秋は満山の楓葉紅を染めて、晴れ渡りたる空の下に鮮かなる紀泉の巒影を賞すべし。故事ありて又神撫山とも稱す。西の麓なる古刹を禪昌寺といふ、

延文中宗光和尚の開基にして、聖觀音を安置す。狩野永徳の畫を藏せり。

再●度●山 神戸市再度筋の北二十町、恰も諏訪山の背後にあり。山頂の古刹を大龍寺といふ。古義眞言宗に屬し、神護景雲二年の創建にして、行基僧正作長三寸八分の如意輪觀音を安置せり。本堂の奥に大師堂ありて弘法大師の像を安し、毎二十一日を賽日とす。鐵柵山及鷗越の古戦場に近く、又奥平野に接して夢野あり、會下山あり。

須●磨 山陽線は神戸を出で、兵庫驛を過ぎ、鐵柵山の麓に沿ひて播磨國明石郡を指す。恰も明石海峡に續ける一帯の海濱を渉るが如し。須磨村は東西に分れ、白沙と青松とに海音を隔て、凡そ五百戸餘の人家、軒に簾を掲げて名物磯馴味噌を業とする家多し。滴るが如き老松の下、白沙の上に立ちて眺むれば、大阪灣の靜波漸く盡んとし、白き波頭の彼方遙かに紀泉の山脈巒々として友ヶ島の翠影に終るあたり、近くは淡路の島影の浮べる、海峡の西、海は再び播磨灘に開き、未遠き水の上に雲の如く搖げることが如きは南海に屬する對岸の巒影なり。白帆は青き波間に、月は沖遠き水平線に明滅

せる漁火の空、地に湧く水は清く、松吹く風は明らかなり。附近須磨寺境内には松風村雨の墓、其他、關屋の跡、鷹屋の跡、行平が詫住の跡、琴柱の松等あり。

須磨寺附近は近年、近畿地方の好轉地療養所として、旅館旗亭多し。

妙法寺 須磨村大字妙法寺、鷹取山の西麓にあり。眞言宗にして新鞍馬寺と稱す。

本尊は行基僧正が手になれる毘沙門天あり。初め聖武天皇の勅願所にして、坊舎三七を有せしが年と共に荒廢し、承和年間定範上人の來り住する以來、再び之を造營せり、黄檗派の覺雲和尚を以て中祖とす。

網敷天神社 菅原道實を祀る。大字西須磨の海濱、街道より半町許南に入りたる松林の中にあり。素朴なる郷社造りにして境内幽靜なる風色に富めり。昔、菅公筑紫へ謫遷の途上、此地に上陸せし時、漁人纒を解きて圓座をなしたりといふ故事に因み、又網輪天神とも遺る。

須磨寺 又福祥寺ともいふ。街道を北に入る二町許、地は西須磨の字上野なり。光

孝天皇仁和二年の創建、開鏡上人の開基する處、本尊は梅檀にして丈三尺五寸の聖觀音なり。昔は坊舎十七を有せし巨刹なりし丈ありて、今荒廢を極むれども、傾ける堂宇、朽たる伽藍自ら壯大なり。青葉の笛、敦盛が自筆の和歌、辨慶筆櫻の制札、母衣絹の名號、敦盛赤旗の名號等を藏し、同前に若木の櫻、堂の左側に義經腰掛松、松風村雨の墓琴柱の松あり。

一の谷附近 須磨驛の西三三四丁にして、昔安徳天皇の行在所たりし内裏路に至る。之れに西して源平古戰場として著名なる一の谷は二の谷三の谷と續きて、高さ凡そ四丁、谷の幅二十間の高低をなす。義經が一の谷の背後を襲ひし鐵拐ヶ峰は、攝播兩國の境、即ち二の谷の奥にあり。壽永の昔、平家安徳天皇を奉じて此處に籠りたる時設けたりといはる、假皇居は、今尙その殘址の如きものを存す。鐵拐ヶ峰の北面を鵬越とす。停車場の西十四丁、三の谷の西一丁にして國道の右側に可憐なる敦盛の塚あり。一丈一尺の五輪石塔臺石の一層毎に梵字を刻す。五町にして播摩國明石郡垂水村鹽屋驛に



坪谷水哉君著

改訂 增補 日本漫遊案内

(博文館發行)

東京本町

全二冊四六判總布上製  
寫真版數多挿入  
紙數千二百五十五頁

正各金壹圓

小包料各金八錢

本書は皆著者が親しく各地を歴巡して視察する所に據り大都名邑勝地舊蹟神社佛閣温泉浴場等の案内は言ふも更なり山海の形勝水陸の交通産業の情況風俗の美惡料理店舟車の費類土産物の調進に到るまで盡く是れを詳記し傍ら歴史を説き古今の詩歌を挿み加之著者特得の各地風景寫真を數百圖と各都市の銅版密刻圖數十餘種を添へ別に上巻に東半部と下巻に西半部の著色詳密圖を附す凡そ地方に旅行する者は必ず一本を缺くべからざるは勿論一室に在て坐ながらにして名勝を知り山光自然の美景を賞するを得べきなり

●上巻 全國東半部下巻 全國西半部着色精大地圖挿入

神谷有終君編

東海道 旅の友 車窓の名勝觀

全一冊三六判上製  
石版印刷口挿入  
正金四拾五錢  
郵稅金六錢

人は汽車旅行の無趣味なるを云ふ山來り川謝して其名を知らず森を迎へ海に臨んで亦不明なり寺に社に名勝舊跡茫として識る所あらず誠に無聊に堪えざらんなり本著者茲に見るあり車窓より左顧右盼して名勝舊跡を指示すべき丁寧親切なる案内者たらしめん爲めに親しく汽車旅行に長日月を費して本書を大成す實に旅の友の名に背かざる良書なり

伊藤銀月君著

旅行者寶鑑

正價金四拾八錢 郵稅金六錢

八木英三郎君著

學生修學旅行案内

關東の部 正價金四拾五錢 郵稅金八錢

同 著

京畿地方修學旅行案内

正價金六拾錢 郵稅金六錢

發兌元 東京本町 博文館

理學士 山崎直方君 共著  
理學士 佐藤傳藏君

齋藤文學士 大塚文學士  
大日向理學士 田山花袋君  
其他數君補助

# 大日本地誌

全部拾卷  
總紙數約  
壹萬餘頁

## 體裁

洋裝菊判總クローズ背皮金文字入製本頗堅牢  
(紙函入)每卷着色地圖及寫真版數十葉挿入

刊 既)

第一卷 關東	第二卷 奧羽	第三卷 中部
方面地圖着色版九枚 寫真銅版八十八頁 紙數九百頁	方面地圖着色版八枚 寫真銅版八十一頁 紙數九百頁	方面地圖着色版六枚 寫真銅版九十三頁 紙數千三百頁
正價金貳圓五拾錢 小包料金拾貳錢	正價金貳圓五拾錢 小包料金拾貳錢	正價金參圓 小包料金拾六錢

書 (目)

第四卷 畿内	第五卷 北陸	第六卷 中國	第七卷 四國
方面地圖着色版二枚 寫真銅版四十二頁 紙數七百三十八頁	方面地圖着色版二枚 寫真銅版四十八頁 紙數八百三十四頁	方面地圖着色版四枚 寫真銅版五十三頁 紙數六百八十頁	方面地圖着色版四枚 寫真銅版五十三頁 紙數六百八十頁
正價金貳圓五拾錢 小包料金拾貳錢	正價金貳圓五拾錢 小包料金拾貳錢	正價金貳圓五拾錢 小包料金拾貳錢	正價金貳圓五拾錢 小包料金拾貳錢

續刊

第八卷 九州  
第九卷 北海道  
第十卷 琉球及臺灣

大日本地誌は全く在來の地誌と其目的方針を異にし其地文人文の關係を説くや極めて明晰なり其體式は一に歐洲最新式の地理書を參酌し每編美麗なる精密地圖寫真版數多を挿入し各地方に於ける山水系系湖澤港灣等の形勢及氣象を詳述し又各地の史蹟を地理的に描寫して古今興亡の沿革を詳らかにし其他行政司法軍事教育宗教交通産業等より各所名勝古蹟に到るまで總て其記述の精確なる材料の豊富なる一として間然する所なく眞に本邦空前の大地理書也。

小杉未醒君著

# 漫畫と紀行

全一冊洋裝菊列總クローズ美本紙數三百三十五頁

正價金八拾錢 小包料金八錢

方今漫畫界の泰斗と稱せらるゝ小杉未醒子は昨年來其作中の氣に入つ

たものを精撰して一冊の書たらしめんと計畫せり、而して滞なく出版

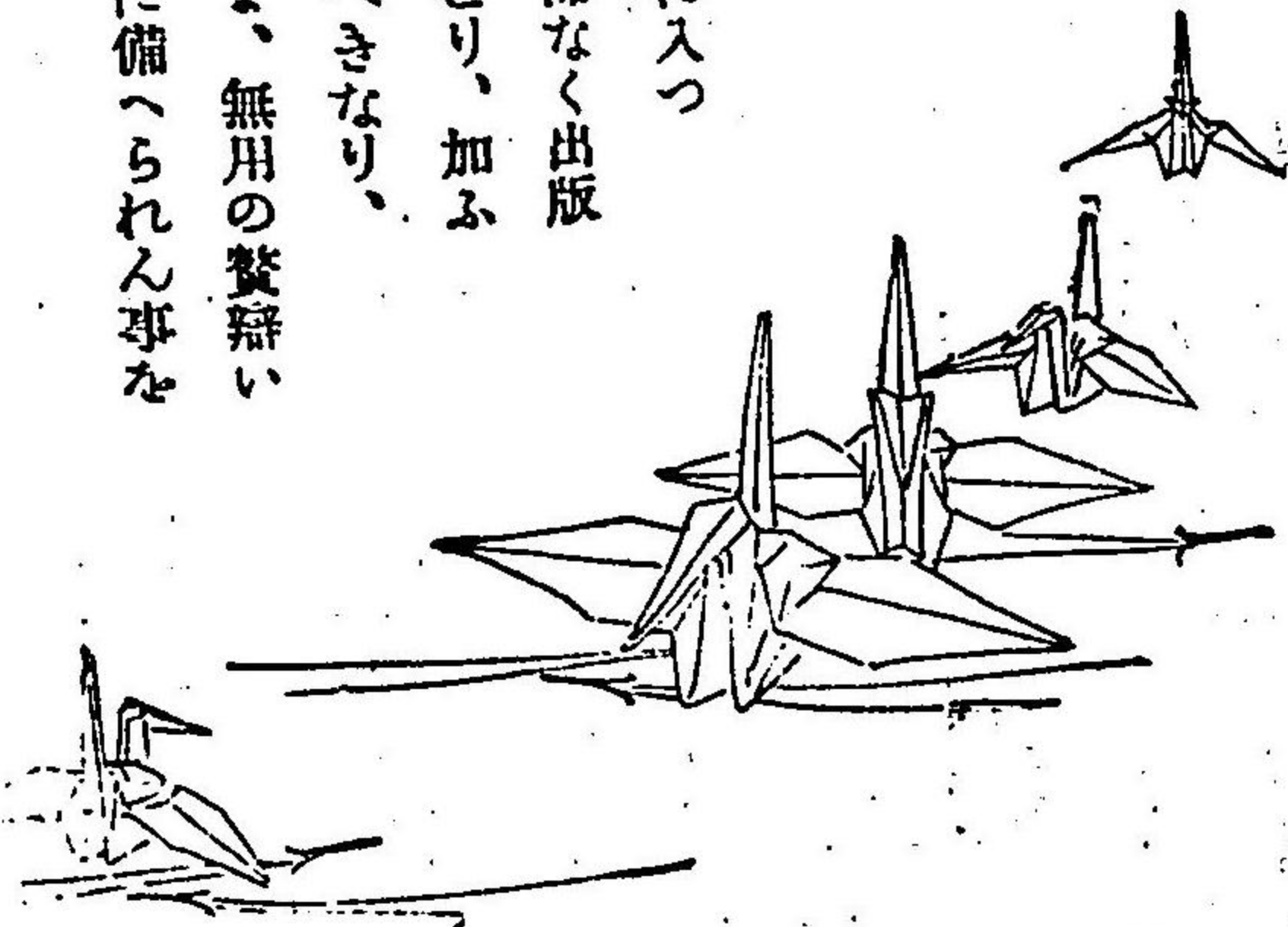
されたのが此書にして、脱俗超凡輕妙雅致の漫畫數百種を網羅せり、加ふ

るに漫畫相應の紀行文を添へたるは蓋し錦上の花とも謂ふべきなり、

乍去百聞は一見に如かず食はざる人に其味の如何を問ふを休めよ、無用の贅辯い

ふ丈け野暮、敢て江湖の諸士に對して此新來の珍友を机上に備へられん事を

切に勸告す。



大和田建樹君著

# 散文野菊

全一冊洋裝袖珍美本  
紙數四百九十頁  
正價金四拾五錢 郵稅六錢

# 關東の山水

全一冊洋裝四六列上製  
表裝高雅美本紙數五百五十頁  
正價金壹圓 小包料金八錢

露を吸ひ霞を喰ひ飄々乎として行き悠々然として止まる高山の巔窮谷の底健脚到

らぬ限もなく筆端縦横關八州の名勝細大漏らさず文章山水渾然一致し高士

紙表に關助し雲煙机邊を掠繞し人をして遺世超俗の思あらしむ洵にこ

れ大町桂月先生獨特の文壇加ふるに地圖あり數十葉の寫眞あり

中村不折小杉未醒丸山晚霞高村眞夫諸先生の挿畫あり皆當代の逸品錦

上更に花を添ふるの觀あらむ。

文學士  
大町桂月君著

# 行雲流水

全一冊洋裝袖珍美本  
紙數三百十頁  
正價金參拾錢  
郵稅金六錢

大町桂月先生の近業數十編を收む議論叙事抒情何くに行くとして可な  
らざるはなく高きを求めずして自ら高く街はず伴らず風骨稜々と  
して氣韻生動す行雲流水の趣は當代の文壇獨桂月先生の筆にのみ見る  
べし。



故大橋乙羽君著

増補 千山萬水

續 千山萬水

※ (覽天賜) ※

乙羽氏が遠遊の癖ある、山の奥、谷の底、景地勝跡足必す實地を踐む、而かも一望一景古へを懐ふに足り今を賞するに足るところに到れば、怪しき小箱を取り出し、不思議の手付をなすと等しく、天下の名山大川は忽ち吸取られて其箱の中に在り、恰かも是れ金角大王が大千世界を一胡蘆の内に盛り入れ終るに似たり、此幻術のある上に、筆端よりほまた雲霧を生じ、妙文たりとるに花を點く、見る者駭然として、身もまた其の箱の中に吸収せられたるが如し、然るに今又七寸の草鞋を友として、朝に高山の靈氣を吸ひ、夕に大海の浪枕、さへは角兵衛との合宿、馬子の道連れなど、なもしるをかしき煙霞の旅を又もや小冊子に書きつゝめで刊行することにはなりぬ。寢て東奥の月を眺め、机にたれて西國の名勝に浮かれんとする人は、早く一本を購ひて、乙羽氏がいかにか繪地の術の巧なるかを見給へかし。

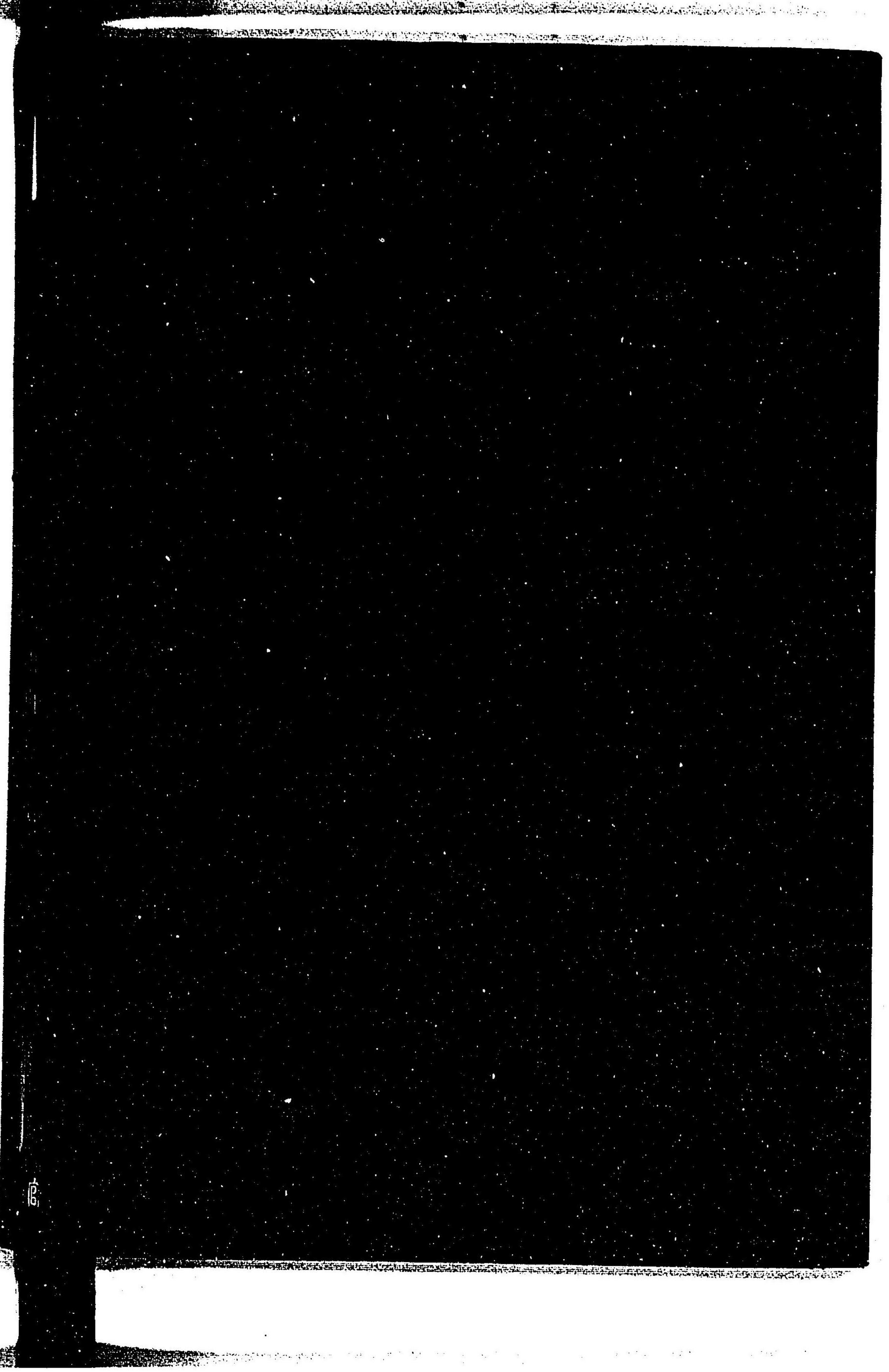
全一冊洋装袖珍總クロイ  
紙數六百三十八頁  
正價 金五拾八錢

全一冊洋装袖珍總クロイ  
紙數六百三十八頁  
正價 金五拾八錢

新撰

72  
432





022563-001-1

72-432

新撰名勝地誌

田山 花袋/編

卷1

M43-T3

ADB-0249



